

# 弘前大学農学生命科学部学術報告

第21号

BULLETIN  
OF THE  
FACULTY OF AGRICULTURE AND  
LIFE SCIENCE  
HIROSAKI UNIVERSITY

No.21

## 付 研究業績目録

2017年10月—2018年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of  
Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
2017 (October) – 2018 (September)

弘前大学農学生命科学部

2019年1月

FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE  
HIROSAKI UNIVERSITY  
HIROSAKI 036-8561, JAPAN

January, 2019

# 弘前大学農学生命科学部学術報告

---

第21号

2019年1月

---

## 目 次

正木 卓・松崎 正敏・石塚 哉史： 酪農制度改革下における青森県酪農の現状と課題 —ゆうき青森農協組合員意向調査をもとに—	1
平成29年度 あすなろ賞	9
<hr/>	
研究業績目録（2017年10月—2018年9月）	15

# 酪農制度改革下における青森県酪農の現状と課題

— ゆうき青森農協組合員意向調査をもとに —

正木 卓・松崎 正敏・石塚 哉史

弘前大学農学生命科学部

(2019年 1月16日受付)

## 1. はじめに

今日の我が国の酪農政策は、TPP問題に作用されるように既存制度や団体機能の改革が先行し議論されている。具体的に示せば、加工原料乳生産者補給金制度の改革、指定団体等と乳業メーカーとの乳価交渉の改革、酪農関連産業の構造改革、国家貿易の運営方式の改革、酪農家の「働き方改革」についてである。

まず、加工原料乳生産者補給金制度の改革<sup>1)</sup>では、指定団体制度によって指定された団体に委託販売する生産者のみに国が財政支援を行うという現行の方式を見直し、生産者が出荷先等を自由に選べる環境の下、経営マインドを持って創意工夫をしつつ所得の増大を促そうというものである。第2の販売を行う団体等と乳業メーカーとの乳価交渉の改革は、生乳の大宗を受託する指定生乳生産者団体が行う交渉について、交渉プロセス等を抜本的に見直すことである。第3の酪農関連産業の構造改革は、国際競争に即した水準の生産性の実現を目指した乳業の業界再編・設備投資等を推進することとし、政府系金融機関の融資、農林漁業成長産業化支援機構の出資等による支援を行うことを掲げている。第4は、国家貿易の運営方式の改革であり、国家貿易で輸入したバター等乳製品について、売渡時に最終消費までの流通を確認する等のモニタリング強化策を徹底することを目指している。最後に酪農家の働き方改革では、政府の最重要課題である働き方改革の趣旨を踏まえ、省力化を実現する搾乳ロボットやパーラーなど、労働条件を大きく改善する設備投資をはじめとする労働支援を幅広い生産者が享受できるよう、短期・集中的に支援することを掲げている。

しかし、こうした改革の真の狙いは牛乳・乳製品市場の完全市場開放にあることが懸念されており<sup>2)</sup>、様々な支援にかかる財源をどのように確保するのが大きな疑問となる。さらに言えば、酪農政策を含む今日の農政改革の流れは、農業・農村を目に見えないかたちで支えてきた制度、団体の機能を弱体化させるだけで、何か新し

いものを生み出す力とはなっていない。青森県でも農業就業人口の平均年齢は、ついに63.6歳となり(2015年センサス)、世代交替は待たなしの課題である。

そこで本稿では、内外環境に左右された酪農情勢のめまぐるしい変化の中で、青森県の酪農生産基盤の維持を目指すため、県内における酪農経営構造を整理し、県内でも有数の酪農地帯であるゆうき青森農協管内の生産者意向調査(アンケート調査)により今後の酪農振興の課題について検討することを目的とする。以下では、まず、県内の酪農生産構造を統計分析から明らかにし、次いで県内における今後の酪農振興の課題についてアンケート調査から検討していく。

## 2. 青森県における酪農生産構造の変化

本章では、農業センサスと各種酪農統計資料を用いて、青森県および県内酪農中核地域である上北地域の農業構造変化をみていく。

### 1) 農家構造の変化

図1と図2は2000年から2015年での青森県と上北地域の年齢別農業経営者数の推移を示したものである。青森県の農業経営者は59,996人から34,866人に減少しており、その減少率は41.8%である。上北地域でも農業経営者数が11,912人から6,704人に減少しており、減少率は43.7%となっている。上北地域では、青森県全体でも農業経営者数の減少が進展していることが伺える。さらに、70歳以上の農業経営者数の割合を見ると、青森県は16.8%から33.7%に増加しており、上北地方でも13.2%から28.8%に増加している。つまり、県全体でもいえるが上北地域はより農業人口の減少と高齢化の進展がみられるのである。

続いて、農業就業人口の推移をみていく。青森県の農業就業人口は109,550人から64,746人に減少しており(減少率:40.8%)、65歳以上の割合は42.5%から54.5%に増加している(図3)。上北地域でも同様の傾向が見られ

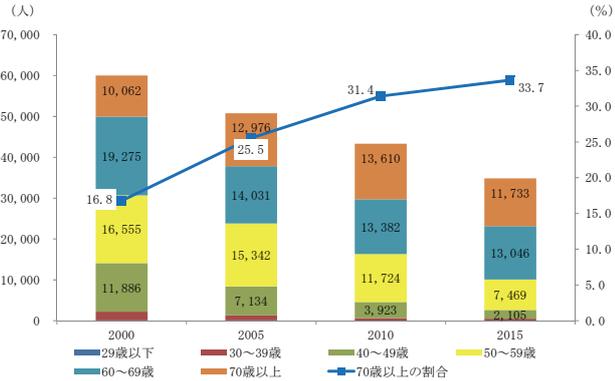


図1 年齢別農業経営者の推移 (青森県)

資料：農業センサスより作成。  
注：販売農家である。

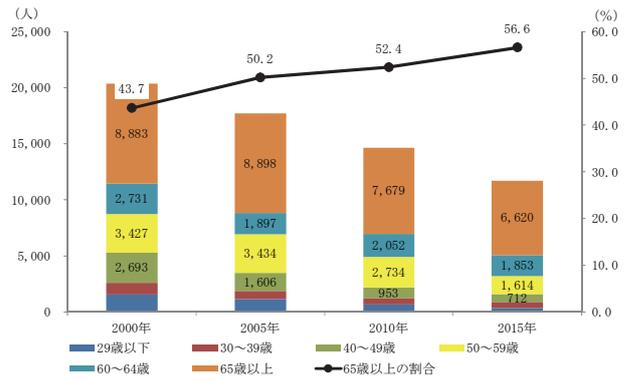


図4 年齢別農業就業人口の推移 (上北地域)

資料：農業センサスより作成。  
注：販売農家である。

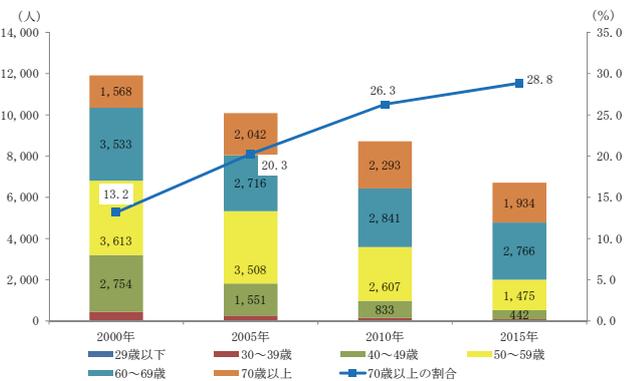


図2 年齢別農業経営者の推移 (上北地域)

資料：農業センサスより作成。  
注：販売農家である。

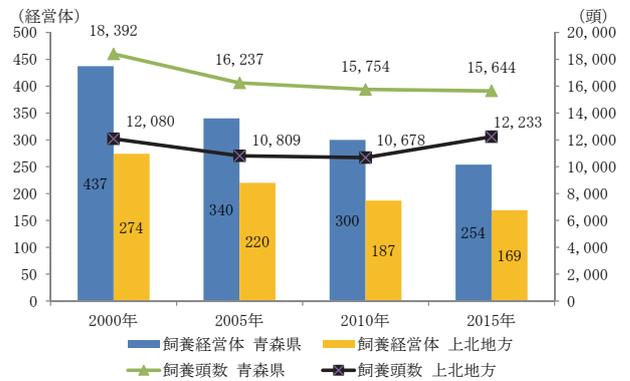


図5 乳用牛の飼養経営体と飼養頭数の推移 (青森県と上北地域)

資料：農業センサスより作成。  
注：販売農家である。

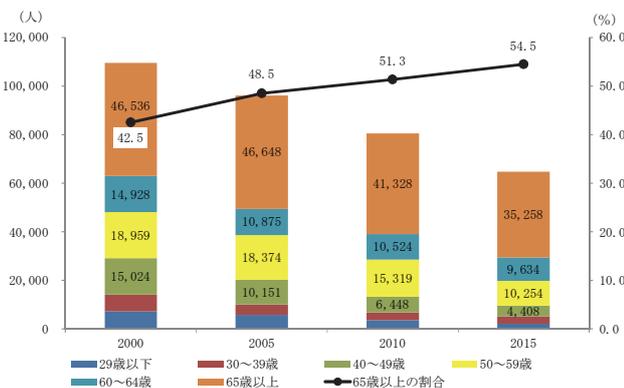


図3 年齢別農業就業人口の推移 (青森県)

資料：農業センサスより作成。  
注：販売農家である。

る (図4)。上北地域の農業就業人口は2000年の20,346人から11,703人に減少しており、その減少率は42.4%となっている。65歳以上層の割合は43.7%から56.6%に増加しており、このことから前述の通り上北地域における農業人口の減少と高齢化の進展が指摘できる。

## 2) 経営体と頭数規模の推移

図5は青森県と上北地域の乳用牛の飼養経営体数と飼

養頭数の推移を示したものである。乳用牛の飼養経営体数は、青森県では2000年の437経営体から2015年の254経営体に減少しており、上北地域でも274経営体から169経営体に減少している。飼養頭数は青森県では2000年の18,392頭から2015年の15,644頭に減少しているが、上北地域では12,080頭から12,233頭に増加している。つまり、上北地域では、乳用牛の飼養経営体は減少しているものの、飼養頭数は拡大していることがわかる。

一戸当たり飼養規模は、青森県で2000年の42.1頭から2015年の61.6頭に増加しており、上北地域でも44.1頭から72.4頭に増加している。

## 3) 生乳生産量の推移

図6は青森県における生乳生産量と年間経産牛1頭当たり生乳生産量の推移を見たものである。青森県の生乳生産量は2001年の86,587トンから63,652トンに減少しており、その減少率は26.4%である。しかし、年間経産牛1頭当たり生乳生産量は7,039.6kgから8,006.5kgに増加している (増加率: 13.7%)。



図6 生乳生産量と年間経産牛1頭当り生乳生産量の推移 (青森県)

資料：畜産統計と牛乳乳製品統計より作成。

### 3. アンケート調査の概要

#### 1) 調査手法

青森県酪農の中核的地域として位置づけされるゆき青森農協管内の酪畜経営組合員を対象にアンケートを依頼し調査を行った。

アンケートの配布・回収状況では、配布数102、回答数102と100%の回収率となっている。なお、アンケートの対象者は現経営主を対象としていることに留意いただきたい。

#### 2) 農家概要

表1は農家経営者における年齢階層別の割合を示している。これをみると回答者102人のうち、「55～59歳」が31人(30.4%)、「60～64歳」が24人(23.5%)、「65～69歳」が15人(14.7%)の順となっており、60歳以上の層が厚く全体的に高齢化の進展がみられる。

次に表2で後継者の有無をみているが、「既に就農している」と回答したのが37人(36.3%)、「決まっているが就農はしていない」が9人(8.8%)となっている。しかし、「いない」と回答した人は21人(20.6%)で、全体の5分の1を占めており、後継者不在の状況が深刻化していることがうかがえる。

表1 年齢別割合

(単位：人，%)		
項目	回答数	割合
29歳以下	2	2.0
30歳代	4	3.9
40～44歳	6	5.9
45～49歳	3	2.9
50～54歳	12	11.8
55～59歳	31	30.4
60～64歳	24	23.5
65～69歳	15	14.7
70歳以上	5	4.9
無回答	0	0.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

表2 農業後継者の有無

(単位：人，%)		
項目	回答数	割合
既に就農している	37	36.3
決まっているが就農はしていない	9	8.8
就学中でわからない	17	16.7
他産業に従事しており分からない	17	16.7
いない	21	20.6
複数戸法人なので該当しない	0	0.0
無回答	1	1.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

表3は経営形態を示している。経営形態は個別経営が大半を示しており、複数戸法人等の協力的な組織経営形態は確認されない。また、表示していないが、「家族経営」に回答した96人を対象に、今後の経営展開として複数戸法人への意向の有無を問うと、「考えている」が20人(20.8%)、「考えていない」が61人(63.5%)であり、高齢化・担い手不足が顕在化するなかで、経営形態は家族経営を中心として展開する意向が非常に強いことがうかがえる。

表3 経営形態

(単位：人，%)		
項目	回答数	割合
家族経営	96	94.1
1戸1法人	5	4.9
複数戸法人	0	0.0
無回答	1	1.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

### 3) 今後の酪農経営の方針

#### (1) 労働力の現状と利用状況

労働力の現状は表4のとおりである。「余裕がある」が39人(38.2%)となっているが、「手一杯である」が44人(43.1%)、「不足している」が18人(17.6%)である。今後、高齢化の進展が予想される中、労働力の確保が経営展開において重要視されるものと考えられる。

表4 労働力の現状

(単位：人，%)		
項目	回答数	割合
余裕がある	39	38.2
手一杯である	44	43.1
不足している	18	17.6
無回答	1	1.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

表5は雇用労働力の利用についてであるが、回答者の半数以上が雇用労働力を利用していないことがわかる。つまり、家族構成員の労働力を基本として経営が展開されている。

表5 雇用労働力の利用

(単位：人，%)

項目	回答数	割合
利用していない	57	55.9
6か月以上継続した雇用者がいる	14	13.7
1か月以上6か月未満で継続した雇用者がいる	1	1.0
必要な時に(日単位，週単位)で雇用している	22	21.6
無回答	8	7.8
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

## (2) 規模拡大への意向

表6では規模拡大についての基本的な考えを示している。回答者の70人(68.6%)が「頭羽数を拡大したい」と回答しており、規模拡大への意向はかなり強いといえる。

表6 規模拡大についての基本的な考え

(単位：人，%)

項目	回答数	割合
今後とも飼養しない	1	1.0
新規に飼養したい	0	0.0
頭羽数を拡大したい	70	68.6
頭羽数の現状を維持したい	24	23.5
頭羽数を縮小したい	1	1.0
経営転換したい	4	3.9
飼養を取りやめたい	1	1.0
無回答	1	1.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

表7は表6で「頭羽数を拡大したい」に回答した方を対象に、規模拡大の際の経営形態について示している。経営形態では、回答者の48人(68.6%)が「現状の家族経営での規模拡大」を考えており、法人化及び作業の外部委託は22人(31.0%)となっている。規模拡大の際の経営形態は、家族経営での意向が強い。

表7 規模拡大際の経営形態

(単位：人，%)

項目	回答数	割合
現状の家族経営での規模拡大	48	68.6
一戸一法人による規模拡大	13	18.6
複数戸法人による規模拡大	4	5.7
TMRセンター・コントラ等，一部作業を外部化	5	7.1
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	70	100.0

資料：アンケート調査より作成。

注：表6で「頭羽数を拡大したい」に回答した方のみである。

## (3) 組織化・法人化への取組み

表8と表9では組織化・法人化に向けた取組みの意向とその理由について示している。回答者の半数以上である65人(63.7%)が「取組みを行う必要があると思う」に回答し、その理由としては、「高齢化への対応」が53人(46.5%)で最も高い。続いて、「後継者不足への対応」(46人，40.4%)，「遊休農地の維持・保全」(12人，10.5%)の順となっている。この結果から、組織化・法人化への取組みは酪農経営の担い手対策としての意向が強いと考えられる。

具体的な組織化・法人化の形態は表10のように、「共同利用組織」と「農協出資型法人」が19人(21.6%)で最も多く、「複数戸法人」(17人，19.3%)，「農作業受託組織」(16人，18.2%)，「農協コントラクター」(9人，10.2%)の順となっているなど、様々な形態がみられる。

表8 組織化・法人化に向けた取組みを行う必要

(単位：人，%)

項目	回答数	割合
取組みを行う必要があると思う	65	63.7
取組みを行う必要がないと思う	19	18.6
わからない	18	17.6
無回答	0	0.0
合計	102	100.0

資料：アンケート調査より作成。

表9 必要と思う理由

(単位：人，%)

項目	回答数	割合
高齢化への対応	53	46.5
後継者不足への対応	46	40.4
遊休農地の維持・保全	12	10.5
兼業農家がおおいことでの労働力対応	2	1.8
わからない	1	0.9
合計	114	100.0

資料：アンケート調査より作成。

注1：表8で「取組みを行う必要があると思う」に回答した方のみである。

注2：複数回答である。

表10 具体的な組織化の形態

項目	(単位：人，%)	
	回答数	割合
複数戸法人	17	19.3
農作業受託組織	16	18.2
共同利用組織	19	21.6
集落営農組織	3	3.4
農協コントラクター	9	10.2
農協出資型法人	19	21.6
TMRセンター	4	4.5
その他	1	1.1
合計	88	100.0

資料：アンケート調査より作成。

注1：表8で「取り組みを行う必要があると思う」に回答した方のみである。

注2：複数回答である。

その中で、共同経営については(表11)、「現在の経営はそのまま継続し、育成牛のみで共同牧場を設立する」が17人(26.2%)で最も多く、次に「その他」が15人(23.1%)、「近隣農家と自己所有の牛を持ち寄り共同牧場を設立する」が14人(21.5%)、「地元の農業関係機関が共同牧場を設立し、そこに自己所有の牛を持ち寄りする」が13人(20.0%)となっている。自己所有の牛による共同経営への意向が強いことがわかる。

表11 共同経営についての具体的な手法

項目	(単位：人，%)	
	回答数	割合
近隣農家と自己所有の牛を持ち寄り共同牧場を設立する	14	21.5
近隣で既に規模拡大している農家に牛を持ち寄り経営参入する	4	6.2
現在の経営はそのまま継続し、育成牛のみで共同牧場を設立する	17	26.2
地元の農業関係機関が共同牧場を設立し、そこに自己所有の牛を持ち寄りする	13	20.0
その他	15	23.1
無回答	2	3.1
合計	65	100.0

資料：アンケート調査より作成。

注：表8で「取り組みを行う必要があると思う」に回答した方のみである。

表12は組織化・法人化の進め方を示したものである。地域における組織化・法人化の進め方については「農協・行政の取り組み方針を明確化する」が54人(28.4%)で最も多く、「組織化に向けた話し合い活動をする」が37人(19.5%)、「リーダーの存在と育成」が33人(17.4%)の順となっている。

表12 地域における組織化・法人化の進め方

項目	(単位：人，%)	
	回答数	割合
組織化に向けた話し合い活動をする	37	19.5
農協・行政の取り組み方針を明確化する	54	28.4
コーディネーターとして農協、普及所の職員を活用する	12	6.3
高齢者や女性の役割分担を明確化する	17	8.9
一元経理を行うメリットを周知する	7	3.7
リーダーの存在と育成	33	17.4
組織化・法人化へのアレルギーを持たない若手農業者が法人化・組織化を主導する	15	7.9
農業機械等の評価を実施する	3	1.6
わからない	12	6.3
その他	0	0.0
合計	190	100.0

資料：アンケート調査より作成。

注：複数回答である。

#### 4. 今後の酪農振興の意向特徴

以上のアンケート調査から、今後の酪農振興の意向を整理すると以下の2点が挙げられる。

第1に、組織化においては、複数戸法人・作業受託組織への意向は弱く、家族労働力を基本とした個別経営での規模拡大の意向がみられる。しかし、今後、さらなる高齢化の進展が予測される中では、家族労働力のみでの経営維持には限界性がうかがえる。

第2に、組織化・法人化に向けた取り組みの必要性について重視する回答者は5割以上であり、具体的な組織形態としては「共同利用組織」と「農協出資型法人」の割合が高い。さらに、このような組織化・法人化を進める際に農協・行政の取り組みの明確化や組織化に向けた話し合い活動への意向が強いことが特徴的である。これは、長年に渡って蓄積してきた家族経営を中心として酪農経営を展開してきた地域性の現われでもある。

#### 5. おわりに

青森県における今日的な酪農振興課題は、以下のよう整理できる。

第1に高齢化の進展、担い手不足問題の更なる展開である。この課題に対処する妙案を見出すことはなかなか難しい。さし迫った課題であることは確かであり、特に「親世代が抜けた時の不安」とその体質強化をどう図るかである。

第2に規模拡大への意向は強いが、あくまでも家族経営での規模拡大意向である。一方で、先述のとおり高齢化や担い手不足は深化しており、家族労働力の限界性も見受けられる。ある意味で意向としては矛盾的構造を招いていると言えるが、それだけ生産者が今後の経営規模

及び担い手問題に関して重要視（危機意識）していることを、ここから受け止める必要がある。

第3に雇用労働力利用拡大への意向は強いと言えるが、労働力が不足する具体的な場面を特定する必要性があり、現実的な雇用確保の可能性（システム化）も大きな課題である。

最後にこのような青森県における今日的な酪農振興課題が明らかになったなかで、その対応策としては以下の点が考えられる。

さらなる規模拡大が予測される中で、後継者不足や労働力確保の困難な状況が現実的な課題となっている。しかし、抜本的な解決策を提示することは難しく、さらに言えば抜本的な対策はあり得ず、問題の「緩和」を考えるしかない。したがって、法人のような協業的組織や作業受託組織といった集約的な酪農経営の方向性<sup>3)</sup>を早々に示す必要がある。ただし、家族経営の意向が強い地域特性の中では、経営を一元化した形での組織化は難しい面を持つ。したがって、複数戸法人や農協出資型法人のような経営の一元化を伴う法人化の検討と合わせて、農作業受委託組織（TMRセンター・コントラ等）や共同利用組織といった、一部協業的な組織についても同時並行的に検討する必要があるだろう。

#### 参考文献

- 【1】清水池義治(2018)「生乳流通制度改革および日EU・EPA合意下の酪農危機」『農業・農協問題研究』第65号
- 【2】清水池義治(2018)「指定団体制度下の生乳流通による市場成果と今後の可能性—北海道を対象に—」

『フロンティア農業経済研究』20(2)

- 【3】清水池義治(2017)「生乳指定団体制度改革および日EU・EPA合意の影響と今後の北海道酪農」『地域と農業』第107号
- 【4】正木卓(2016)「大規模経営の購買戦略-チクレン-」『農業と経済』(9)
- 【5】小林信一他(2015)「畜産経営安定法を巡って—酪農・乳業の将来を考える」『畜産経営経済研究』(17)
- 【6】長尾正克(2018)『ジャスト・プロポーション』筑波書房
- 【7】矢坂雅充・高橋巖(2017)「酪農制度改革と指定生乳生産者団体」高橋巖編著『地域を支える農協』コモンズ
- 【8】岡田直樹(2016)『家族酪農経営と飼料作外部化』日本経済評論社
- 【9】小林信一編(2014)『日本を救う農地の畜産的利用—TPPと日本畜産の進路』農林統計出版

#### 注

- 1) 清水池(2018)に詳しい。
- 2) 清水池(2018)に詳しい。
- 2) 正木(2016)では、専業酪農地帯である北海道の集約的な酪農法人経営について整理している。

#### 付記

本稿は、ゆうき青森農協受託研究事業（「酪農生産基盤の維持・強化に関する調査研究」）による研究成果の一部である。

Current situation and prospects of dairy farming in Aomori  
Prefecture after dairy policy reform  
– Based on the JA Yuuki Aomori members intention survey –

Suguru MASAKI, Masatoshi MATSUZAKI, Satoshi ISHITSUKA

Hirosaki University, Faculty of Agriculture and Life Science

(Received for publication January 16, 2019)

SUMMARY

Amid dramatic changes in dairy farming caused by internal and external factors, this research aims to make suggestions and recommendations for the maintenance of the dairy farming production based in Aomori prefecture through a review of the dairy farming structure in the prefecture and a questionnaire survey of producers' intentions under the jurisdiction of JA Yuuki Aomori.

Bull. Fac. Agric. & Life Sci. Hirosaki Univ. **No.21**: 1-7, 2019



## 弘前大学農学生命科学部あすなる賞要項

### (設立目的)

1 弘前大学農学生命科学部あすなる賞（以下「あすなる賞」という）は、優れた生命科学における研究成果を学術集会で発表する弘前大学農学生命科学部および農学生命科学研究科の学生を顕彰することにより、学生の研究水準の向上を図ることを目的とする。

### (対象研究成果と応募資格)

2 対象となる研究成果と応募資格は次のとおりとする。

- ア 独創的な優れた生命科学における研究成果であること。
- イ 研究は、弘前大学又はその関連する施設で行なわれたものであること。
- ウ 応募者は、全国的または国際的レベルの学術集会で第一著者として発表する者（発表した者、または発表を予定する者）であること。

### (応募方法等)

3 学術賞の応募者は、次に挙げる書類を各6部（正1部、副5部）、弘前大学農学生命科学部長に提出する。

- (1) 申請書
- (2) 履歴書
- (3) 指導教員の推薦書  
(400字以内)
- (4) 学術集会発表要旨のコピー
- (5) 応募締切は毎年1月末日とする。

### (受賞)

4 受賞については次のとおりとする。

- (1) 受賞者の選考は、あすなる賞選考委員会が行い、弘前大学農学生命科学研究科委員会で承認する。
- (2) 受賞者数は原則毎年10名とする。
- (3) 受賞者には本賞及び副賞を贈呈する。
- (4) 受賞者の発表演題、著者名、発表学術集会名、開催期間、発表場所は「弘前大学農学生命科学部学術報告」に掲載するものとする。ただし、上記学術報告は学部ホームページおよび弘前大学学術情報リポジトリとして掲載されるため、演題を掲載できない場合は、申請時に「あすなる賞選考委員会」に申し出ること。
- (5) 申請した学会で発表しなかった場合、あすなる賞の決定を取り消すものとする。

### 附 則

- この要項は平成20年9月17日から施行する。
- この要項は平成21年2月18日から施行する。
- この要項は平成21年6月17日から施行する。
- この要項は平成24年6月20日から施行する。
- この要項は平成26年4月1日から施行する。

### 附 記

本賞は、弘前大学農学生命科学部における生命科学研究水準の向上を願う、京都大学教授佐藤 矩行氏の御厚意により設立されたものである。

## あすなる賞受賞者

## 平成29年度

安 松 浩

光照射が‘ソメイヨシノ’花卉の着色に及ぼす影響

一般社団法人園芸学会平成30年度春季大会, H30. 3. 24~25, 近畿大学農学部

大 熊 康 仁

*Dictyostelium caveatum* の形質転換法開発に向けて

第7回日本細胞性粘菌学会例会, H29. 10. 21~22, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (BKC)

大 崎 晴 菜

植物の競争環境に応じた表現型可塑性に着目した植物性昆虫の共存機構の解明: エゾノギシギシとハムシ2種を用いた検証

第49回種生物学シンポジウム, H29. 12. 1~3, 福井市すかつとランド九頭竜

太 田 翔 子

トマト果実における PEPC 翻訳後修飾機構の解明

日本植物学会第81回大会, H29. 9. 8~10, 東京理科大学野田キャンパス

桂 卷 杏 莉

フラビウイルス複製オルガネラ形成における小胞体局在タンパク質 Lunapark の役割

第90回日本生化学会大会, H29. 12. 6~9, 神戸市神戸国際展示場

木 村 彰 宏

水期後のブナの分布変遷が樹上性昆虫の群集構成と遺伝的分化に与える影響

日本生態学会第65回全国大会, H30. 3. 14~18, 札幌市札幌コンベンションセンター

栗 本 祐 樹

1. 基幹化合物生産の効率化に向けた Protocatechuate decarboxylase 反応機構の解明, 2. Flavin prenyltransferase 発現によるプロトカテク酸脱炭酸酵素の活性化

1. 日本農芸化学会東北支部第152回大会, H29. 11. 4, 秋田県立大学秋田キャンパス, 2. 農芸化学会2018年度大会, H30. 3. 15~18, 名城大学天白キャンパス

杉 本 咲

ブナにおける葉フェノロジーの集団内・集団間変異~積算温量を用いた変異の生成過程に関する検証と気候変動に対する応答の予測~

日本生態学会第65回全国大会, H30. 3. 14~18, 札幌市札幌コンベンションセンター

田 中 静 也

The structure of Cyclohelminthol Y

日本農芸化学会2018年度大会, H30. 3. 15~18, 名城大学

蓮 湯 里 帆

ツメガエルの四肢における局所的な遺伝子発現誘導技術の確立

日本動物学会第88回富山大会, H29. 9. 21~23, 富山市富山県民会館

弘前大学農学生命科学部

# 研究業績目録

2017年10月 – 2018年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
2017 (October) – 2018 (September)

弘前大学農学生命科学部

2019年1月

Faculty of Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
Hirosaki 036 – 8561, Japan  
January, 2019



## は し が き

本号の「研究業績目録」には、2017年10月から2018年9月までの業績を掲載しました。業績の区分は、a－研究論文、b－学術図書、c－その他の著書・訳書、d－学会発表、e－調査・実験報告書、f－その他、とし、各自の申請に基づいています。各学科の教員組織（2018年10月1日現在）は以下の通りです。

### 生物学科

#### （基礎生物学コース）

葛西身延, 黒尾正樹, 福澤雅志, 大河 浩, 小林一也, 笹部美知子, 西野敦雄, 吉田 渉

#### （生態環境コース）

東 信行, 杉山修一, 池田紘士, 石田 清, 曾我部篤, 山尾 僚

### 分子生命科学科

#### （生命科学コース）

姫野俵太, 牛田千里, 高田 晃, 森田英嗣, 横山 仁, 栗田大輔, 畠山幸紀

#### （応用生命コース）

殿内暁夫, 橋本 勝, 吉田 孝, 坂元君年, 園木和典, 濱田茂樹

### 食料資源学科

#### （食料バイオテクノロジーコース）

石川隆二, 千田峰生, 赤田辰治, 柏木明子, 田中克典

#### （食品科学コース）

岩井邦久, 中島 晶, 佐藤之紀, 君塚道史, 西塚 誠, 前多隼人, 山元涼子

#### （食料生産環境コース）

青山正和, 佐野輝男, 金児 雄, 田中和明, 松山信彦, 菅原亮平

### 国際園芸農学科

#### （園芸農学コース）

荒川 修, 張 樹槐, 前田智雄, 松崎正敏, 川崎通夫, 川端二功, 本多和茂, 叶 旭君  
田中紀充

#### （食農経済コース）

泉谷眞実, 石塚哉史, 佐藤加寿子, 佐藤孝宏, 高梨子文恵, 成田拓未, 正木 卓  
吉仲 怜

### 地域環境工学科

泉 完, 佐々木長市, 檜垣大助, 藤崎浩幸, 遠藤 明, 加藤 幸, 丸居 篤, 森 洋  
加藤千尋, 鄒 青穎, 森谷慈宙

### 生物共生教育研究センター

伊藤大雄, 林田大志, 姜 東鎮, 房 家琛

### 白神自然環境研究センター

石川幸男, 中村剛之, 山岸洋貴

## 目 次

生物学科	15
基礎生物学コース	15
生態環境コース	17
分子生命科学科	21
生命科学コース	21
応用生命コース	23
食料資源学科	26
食料バイオテクノロジーコース	26
食品科学コース	28
食料生産環境コース	31
国際園芸農学科	34
園芸農学コース	34
食農経済コース	38
地域環境工学科	42
生物共生教育研究センター	47
白神自然環境研究センター	48

## 業 績 目 録

## 【生物学科】

## 【基礎生物学コース】

## 葛西 身延

## 黒尾 正樹

- d-01. 丹羽奎太・黒尾正樹・西川完途：ツシマサンショウウオの遺伝的2集団. 日本爬虫両棲類学会第56回大会(熊本), 2017.
- d-02. 塚本誠太・岡本 卓・本川雅治・黒尾正樹：遺伝的・形態的に分化したヒガシニホントカゲ2群間における生息適地の比較. 日本爬虫両棲類学会第56回大会(熊本), 2017.
- f-01. 黒尾正樹・鈴木千尋・田中 駿・佐々木七星・長内淳次・石田 清：マイクロサテライト・マーカーを用いたチョウゲンボウの個体識別. 日本鳥学会誌, 67: 165, 2018.
- f-02. Tsukamoto, S., T. Okamoto, M. Motokawa, M. Kuro-o: A comparison of potential habitats of the two genetically and morphologically distinct groups of *Plestiodon finitimus*. Bull. Herpetol. Soc. Jpn, 2018: 102, 2018.
- f-03. Niwa, K., M. Kuro-o, K. Nishikawa: Two genetic groups of *Hynobius tsuensis*. Bull. Herpetol. Soc. Jpn, 2018: 112-113, 2018.

## 福澤 雅志

- a-01. Fukuzawa, M.: Reproductive strategies in social amoeba. In "Reproductive & Developmental Strategies" eds by K. Kobayashi, T. Kitano, Y. Iwao, M. Kondo, Springer Japan. p223-244, 2018.
- d-01. 大熊康仁・福澤雅志：*Dictyostelium caveatum*の形質転換法開発に向けて. 日本細胞性粘菌学会 第7回年会(立命館大学), 2017.

## 大河 浩

- a-01. Ohta S., N. Nitani, K. Sota and H. Ohkawa : (2018) Isolation of stress tolerance microalgae in Aomori area: its morphological and physiological characteristics II. Shirakami-kenkyu 13: 48-53.
- d-01. 片野創太・Ferjani Ali・大河 浩：シシアノバクテリアの生育における可溶性PPaseの役割. 第7回東北植物学会大会(盛岡), 2017.

## 小林 一也

- a-01. Maezawa T., K. Sekii, M. Ishikawa, H. Okamoto, K. Kobayashi: Reproductive strategies in planarians: Insights gained from the bioassay system for sexual induction in asexual *Dugesia ryukyuensis* worms. In "Reproductive & Developmental Strategies" eds by K. Kobayashi, T. Kitano, Y. Iwao, M. Kondo, Springer Japan. p175-201, 2018
- a-02. Nakagawa H., K. Sekii, T. Maezawa, M. Kitamura, S. Miyashita, M. Abukawa, M. Matsumoto, K. Kobayashi: A comprehensive comparison of sex-inducing activity in asexual worms of the planarian *Dugesia ryukyuensis*: the crucial sex-inducing substance appears to be present in yolk glands in Tricladida. Zool. Lett. 4, 14, 2018.
- b-01. Kobayashi K., T. Kitano, Y. Iwao, M. Kondo: Reproductive and Developmental Strategies: The Continuity of Life, Springer Japan, 2018.
- b-02. 小林一也：有性生殖と無性生殖—生殖戦略の多様性. 動物学の百科事典 日本動物学会編, 丸善出版, p274-275, 2018.
- d-01. 小林一也：プラナリアの生殖様式転換機構の解明を目指して. 第6回生殖若手の会(下田), 2018(招待講演).
- d-02. Sekii K., S. Miyashita, M. Narita, M. Sasaki, M. Seki, K. Kobayashi: Sex-inducing substances are widely conserved among Platyhelminthes, including parasitic flatworms. The International Research Symposium on Germness and Pluripotency of the Planarians in comparison with the Fly and Mouse Systems (Hirosaki), 2018(招待講演)
- d-03. 加納沙也佳・関井清乃・小林一也・梅園良彦・織井秀文：プラナリア生殖腺発達におけるFGFシグナルの機能解析. 日本動物学会第89回大会(札幌), 2018.
- d-04. 前澤孝信・清水辰海・江川碧唯・石川正樹・関井清乃・小林一也：プラナリア有性化過程における卵巣形成機構.

日本動物学会第89回大会(札幌), 2018.

- d-05. 高橋朝花・嶋崎 綾・関井清乃・小林一也・佐藤勇気・阿形清和: 種々の動物における胚性幹細胞の培養の試み. 日本動物学会第89回大会(札幌), 2018.

### 笹部 美知子

- a-01. Vial-Pradel, S., S. Keta, M. Nomoto, L. Luo, H. Takahashi, M. Suzuki, Y. Yokoyama, M. Sasabe, S. Kojima, Y. Tada, Y. Machida, C. Machida: Arabidopsis Zinc-Finger-Like Protein ASYMMETRIC LEAVES2 (AS2) and Two Nucleolar Proteins Maintain Gene Body DNA Methylation in the Leaf Polarity Gene ETTIN (ARF3). *Plant Cell Physiol.* **59**: 1385–1397, 2018.
- d-01. 増子雄貴・笹部美知子: M期特異的に発現する新奇レセプター様キナーゼの機能解析(2). 東北植物学会第7回大会(岩手大学上田キャンパス), 2017.
- d-02. 橋場真子・鈴木伶奈・高橋雛子・樋口菜々美・伊藤千尋・佐野亮輔・倉田哲也・出村 拓・渡邊悦子・上村松生・町田泰則・笹部美知子: タバコBY-2細胞のプロトプラストと生理活性化合物を利用した植物細胞の伸長と分裂方向を決める因子の探索. 東北植物学会第7回大会(岩手大学上田キャンパス), 2017.
- d-03. 三上裕大・富田昌伸・濱田隆宏・中神弘史・橋本 隆・町田泰則・笹部美知子: 植物の細胞質分裂を制御するMAPキナーゼの下流因子の探索. 東北植物学会第7回大会(岩手大学上田キャンパス), 2017.
- d-04. 富田昌伸・濱田隆宏・中神弘史・橋本 隆・町田泰則・笹部美知子: シロイヌナズナの細胞板形成を制御するMAPKカスケードの下流因子の候補ATK5の研究. 東北植物学会第7回大会(岩手大学上田キャンパス), 2017.
- d-05. Sasabe, M., T. Higaki, Y. Nishida, S. Morioka, R. Suzuki, T. Uemura, H. Yasuhara, S. Hasezawa, T. Ueda, Y. Machida: Involvement of M phase-specific kinesin NACK1 in intercellular transport during the formation of cell plates. 第59回日本植物生理学会年会(札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-06. Suzuki T., N. Matsuo, M. Omatsu, M. Tanaka, M. Sasabe, C. Machida, Y. Machida: Use of novel decoy molecules to reduce the symptom development caused by leaf curl viruses in crops. 第59回日本植物生理学会年会(札幌コンベンションセンター), 2018.

### 西野 敦雄

- b-01. Nishino, A.: Morphology and physiology of the ascidian nervous systems and the effectors. In “Transgenic Ascidiars” Y. Sasakura (ed.) *Adv. Exp. Med. Biol.* **1029**: 179–196, 2018.
- b-02. Nishino, A., Y. Okamura: Evolutionary history of voltage-gated sodium channels. In “Voltage-gated Sodium Channels and Their Related Diseases” M. Chahine (ed.) *Handb. Exp. Pharmacol.*, **246**: 3–32, 2018.
- f-01. 大塚玄航・広瀬裕一・西野敦雄: しっぽの形態からみたオタマボヤ類の多様性. *うみうし通信*, **97**: 10–12, 2017.
- d-01. 西野敦雄: ホヤ幼生の遊泳運動について. 平成29年度青函水産試験研究交流会議(ホタテガイ部会)(八戸市ユートリー), 2017.
- d-02. 伊藤香澄・渡部 翔・西野敦雄: ホヤ幼生筋における筋原線維の形成プロセス. 日本動物学会平成30年度東北支部大会(山形大学), 2018.
- d-03. 川口愛翔・大塚玄航・西野敦雄: ワカレオタマボヤの筋肉細胞分化には細胞間相互作用が必要である. 日本動物学会平成30年度東北支部大会(山形大学), 2018.
- d-04. 西野純子・西野敦雄・浦野明央・窪川かおる: ナメクジウオの内分泌器官における発現遺伝子の比較解析. 日本動物学会第89回札幌大会(震災のため要旨のみWeb上で発表), 2018.
- d-05. 黒岩夏澄・西野敦雄: マボヤの幼生被囊は脱コリオンによって何が変わるのか. 日本動物学会第89回札幌大会(震災のため要旨のみWeb上で発表), 2018.
- d-06. 森井椋太・池田紘士・西野敦雄: クロサンショウウオ(*Hynobius nigrescens*)における頭胴長と尾長の地理的変異. 日本動物学会第89回札幌大会(震災のため要旨のみWeb上で発表), 2018.
- d-07. 藤掛雄馬・西野敦雄: カタユウレイボヤの心臓における細胞構築と拍動方向反転現象の研究. 日本動物学会第89回札幌大会(震災のため要旨のみWeb上で発表), 2018.
- d-08. 西野純子・西野敦雄・浦野明央・窪川かおる: 頭索動物の様々な組織における内分泌物質の遺伝子発現. 第43回日本比較内分分泌学会大会仙台大会(東北大学), 2018.

### 吉田 渉

- a-01. 渋谷長生・吉田 渉・吉仲 怜・丸山 晃矢: 陸奥湾におけるナマコ資源管理の現状と課題. 弘前大学農学生命

科学部学術報告, 20: 13–33, 2018.

- a-02. 渋谷長生・吉田 渉・吉仲 怜: 日本産ナマコ輸出に伴う緒問題と今後の方向. 弘前大学農学生命科学部学術報告, 20: 35–49, 2018.
- a-03. 渋谷長生・吉田 渉: 最近の中国と日本のナマコ消費の特徴 —日本にはナマコキャラクターがいっぱいある—, 弘前大学農学生命科学部学術報告, 20: 51–60, 2018.
- d-01. Wang Qiteng・吉田 渉: 夏眠導入水温下での稚ナマコの腸と呼吸樹の組織的な変化. 平成30年度日本水産学会春季大会(東京海洋大学), 2018.
- f-01. 吉田 渉: 陸奥湾におけるナマコ漁業と資源管理. 高知県黒潮町, 2018.
- f-02. Yoshida, W.: Sea cucumber farming in East Asia. 10th Rendez-Vous de Concarneau: Where industry meets Science in marine biotechnology (invited lecture), France, 2018.

## 【生態環境コース】

### 東 信行

- a-01. Murano, C., S. Kasahara, S. Kudo, A. Inada, S. Sato, K. Watanabe, N. Azuma: Effectiveness of vole control by owls in apple orchards. *Journal of Applied Ecology*. DOI: 10.1111/1365-2664.13295, 2018.
- a-02. 泉 完・東 信行・丸居 篤・矢田谷健一: 河川遡上期におけるシロウオの突進速度に関する実験: 土木学会論文集G(環境), Vol.73, No.7, III\_269-III\_274, 2017.
- d-01. 菊地亮太・東 信行: 再開発ダム完成前後のダム下流生態系における食物網・物質循環の比較, 日本生態学会第65回全国大会, 2018.
- d-02. 本多里奈・東 信行: カワウ・アオサギ混合コロニーの営巣位置と繁殖成績, 日本生態学会第65回全国大会, 2018.
- d-03. ムラノ千恵・飯島勇人・東 信行: 発見率を考慮したりんご果樹園におけるハタネズミの生息密度の季節変化, 日本哺乳類学会2018年度大会, 2018.
- d-04. 笠原里恵・森本 元・北村 亘・今西貞夫・東 信行: 長野県の千曲川で繁殖するコチドリの越冬地と重要な中継地, 日本鳥学会2018年度全国大会, 2018.
- d-05. Honda, R., N. Azuma: Why can cormorants and herons breed together in mixed-species colony?, 27th International Congress of Ornithology, 2018.
- d-06. 笠原里恵・北野 聡・傳田正利・東 信行: 千曲川中流域で繁殖するカワセミにおける, 外来魚コクチバスの増加前後の雛への搬入食物の比較, 応用生態工学会22回大会, 2018.
- f-01. 東 信行: 岩木川流域の自然と魅力, 人と自然が共生する岩木川に向けて～生態系ネットワークを生かした地域づくり～, 東北生態系ネットワーク協議会, 2018.

### 杉山 修一

- a-01. Wang, B., Y. Adachi, S. Sugiyama: Soil productivity and structure of bacterial and fungal communities in unfertilized arable soil. *PLoS ONE* **13**(9): e0204085, 2018.
- a-02. Hirakue, A., S. Sugiyama: Relationship between foliar endophytes and apple cultivar disease resistance in an organic orchard. *Biological Control* **127**: 139–144, 2018.
- a-03. Soliman, WS., S. Sugiyama, A. Abbas: Contribution of avoidance and tolerance strategies towards salinity stress resistance in eight C3 turfgrass species. *Horticulture, Environment and Biotechnology* **59**: 29–36, 2018.
- d-01. Wang, B., S. Sugiyama: Root Endophytic Microbiome among 20 Plant Families: Are There Any Assembling Rules in Root Microbiome? Meeting of International Society of Microbial Ecology. Leipzig, 2018.
- d-02. 斎藤嶺次郎・杉山修一: 長期無肥料水田における窒素固定微生物群集と窒素供給力. 日本土壤微生物学会(広島大学), 2018.

### 池田 紘士

- a-01. Tanahashi, M., H. Ikeda, K. Kubota: Elementary budget of stag beetle larvae associated with selective utilization of nitrogen in decaying wood, *Sci. Nat.* **105**: 33, 2018.
- a-02. Ikeda, H., K. Fukumori, E. Shoda-Kagaya, M. Takahashi, M.T. Ito, Y. Sakai, K. Matsumoto: Evolution of a key trait greatly affects underground community assembly process through habitat adaptation in earthworms, *Ecol.*

Evol. **8**: 1726–1735, 2018.

- a-03. 金子信博・井上浩輔・南谷幸雄・三浦季子・角田智詞・池田紘士・杉山修一：有機リング圃場の土壌動物多様性—慣行リング圃場および森林との比較—, *Edaphologia*, **102**: 31–39, 2018.
- d-01. 木村彰宏・池田紘士：青森県西部における氷期後のブナの分布変遷が樹上性昆虫の群集構成に与える影響, 第52回青森県昆虫談話会, 弘前, 2017.
- d-02. Kaneda, S., H. Ueno, S. Eitaki, H. Ikeda: The effect of organic management on earthworm community structure in citrus orchard field, 8th EAFES International Congress (Nagoya University), 2018.
- d-03. 木村彰宏・池田紘士：氷期後のブナの分布変遷が樹上性昆虫の群集構成と遺伝的分化に与える影響, 第65回日本生態学会大会, 札幌, 2018.
- d-04. Kimura, A., H. Ikeda: The effects of distribution change of beech forest after the last glacial period on community composition and geographic genetic differentiation of arboreal insects, International Research Workshop on Xishuangbanna Tropical Botanical Garden and Department of Biology (Hiroshima University), 2018.
- d-05. 池田紘士：地表や地中に生きる無脊椎動物の進化, 森林科学セミナー, 招待講演, (東京大学), 2018.
- d-06. 森井椋太・池田紘士・西野敦雄：クロサンショウウオ (*Hynobius nigrescens*) における頭胴長と尾長の地理的変異. 日本動物学会第89回札幌大会 (震災のため要旨のみWeb上で発表), 2018.

## 石田 清

- a-01. Mizuki I., K. Ishida, M. Chiwa, Y. Uehara, K. Shinozuka and A. Kume: Nutrient deficiency promotes male-biased apparent sex ratios at the ramet level in the dioecious plant *Myrica gale* var. *tomentosa* in oligotrophic environments in bogs. *Journal of Plant Research* <https://doi.org/10.1007/s10265-018-1056-3>. Published online: 2018
- d-01. 石田 清・杉本 咲：ブナ集団における開芽時期の年変動と場所間変異：開芽積算温量の可塑性と進化. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-02. 杉本 咲・石田 清・今井麻理菜：ブナにおける葉フェノロジーの集団内・集団間変異～積算温量を用いた変異の生成過程に関する検証と気候変動に対する応答の予測. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-03. 船木賢人・石田 清：分布北限以北におけるシラカシ稚樹の耐凍性と生残過程. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-04. 白濱千紘・織部雄一郎・宮沢良行・石田 清：積雪がもたらすブナ・ミズナラの空間分布とその生成要因. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-05. 日下部玄・鳥丸 猛・石田 清：ブナ・アオモリトドマツの成木は雪を介して稚樹の分布に影響を与えるか—林内の積雪分布を用いた検証—. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-06. 石田 清・杉本 咲・白濱千紘・織部雄一郎・宮沢良行：雪山における落葉樹の開葉時期：可塑性と進化, 気候変動に対する応答. 第129回日本森林学会大会 (高知大学), 2018.
- d-07. 和田崎直隆・石田 清・戸丸信弘：シデコブシとコブシ間の人工授粉実験による繁殖干渉の評価. 第129回日本森林学会大会 (高知大学), 2018.
- d-08. 日下部玄・石田祐宣・伊藤大雄・石田 清：択伐後放棄されたブナ林における下層群集の空間変異と動態. 第129回日本森林学会大会 (高知大学), 2018.

## 曾我部 篤

- a-01. Endo, T., M. Sekino, A. Fujiwara, A. Sogabe: Development and characterization of 19 novel microsatellite markers in the Pacific seaweed pipefish *Syngnathus schlegelii* using next-generation sequencing. *Mol. Biol. Report.*, **45**: 2831–2834, 2018.
- b-01. サラ・ローリィ (著)・曾我部篤 (訳)：タツノオトシゴ図鑑. 丸善出版, 2018.
- d-01. Hata, H., A. Sogabe, H. Takeshima & R. Kawanishi: Molecular phylogeny of obligate fish parasites of the family Cymothoidae (Isopoda, Crustacea): Evolution of the attachment mode to host fish and the habitat shift from saline water to freshwater. 10th Indo-Pacific Fish Conference, Tahiti, French Polynesia, 2017.
- d-02. Kawaguchi, M., N. Yamamoto, K. Matsumoto, K. Nakayama, H. Hagio, J. Shibata, A. Sogabe, R. Kawanishi, H. Izumi, Y. Akazome, F. Suto, Y. Murakami, H. Ichijo: Neural basis driving speciation among *Rhinogobius species*. 第41回日本神経科学大会 (神戸), 2018.

- d-03. 曾我部篤・三上 賛・笠原里恵・工藤誠也・東 信行：ため池の魚類相がカンムリカイツブリの生息地選択に及ぼす影響. 第1回環境DNA学会大会(東京), 2018.
- f-01. 曾我部篤：環境DNA分析を用いた水産資源管理への挑戦. 進化生態学セミナー, 長崎大学(長崎), 2018.

## 山尾 僚

- a-01. Sato M., H. Ohsaki, Y. Fukano, A. Yamawo: Self-discrimination in vine tendrils of different plant families. *Plant Signaling & Behavior*. e1451710, 2018.
- a-02. Yamawo A., N. Suzuki: Induction and relaxation of extrafloral nectaries in response to simulated herbivory in young *Mallotus japonicus* plants. *Journal of Plant Research*. **131**: 255-260, 2018.
- d-01. 大崎晴菜・山尾 僚：植物種内における葉の形質の変異が植食性昆虫の資源分割を促す. 日本生態学会東北地区大会(福島大学), 2017.
- d-02. 大野美涼・山尾 僚：落葉高木の葉形質は個体サイズで異なるのか？—ブナとハウチワカエデを対象とした検証—. 日本生態学会東北地区大会(福島大学), 2017.
- d-03. 山尾 僚・深野裕也：つる植物の巻き髭における多様な識別能. 日本生態学会関東地区大会(東京大学), 2017.
- d-04. 大崎晴菜・山尾 僚：植物の競争環境に応じた表現型可塑性に着目した植食性昆虫の共存機構の解明：エゾノギンギシとハムシ2種を用いた検証. 第49回種生物学学会(すかつとランド九頭竜), 2017.
- d-05. 後藤可南子・山尾 僚・川窪伸光：アカメガシワの成長と化学・物理・生物的防御形質の時空間変化. 第49回種生物学学会(すかつとランド九頭竜), 2017.
- d-06. 山岸洋貴・山尾 僚・末次健司：ツチアケビの種子は哺乳類にも運ばれる？. 第49回種生物学学会(すかつとランド九頭竜), 2017.
- d-07. 山尾 僚・向井裕美：環境識別による植物の多様なふるまいとその変異. 種生物学学会企画シンポジウム(すかつとランド九頭竜), 2017.
- d-08. 向井裕美・石川勇人・澤進一郎：種子の生物的環境に応じた可塑的な発芽. 種生物学学会企画シンポジウム(すかつとランド九頭竜), 2017.
- d-09. 山尾 僚・向井裕美：種子による植食者識別能の個体群変異. 第65回日本生態学会(札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-10. 大崎晴菜・山尾 僚：寄主植物の競争環境に応じた葉形質の変異は植食性昆虫の資源分割を促すのか？. 第65回日本生態学会(札幌コンベンションセンター), 2018.
- d-11. Ohsaki H., A. Yamawo: Does phenotypic plasticity of the leaves of host plants promote resource partition between leaf beetles? 8th EAFES International Congress (Nagoya University), 2018.
- d-12. Yamawo A., H. Mukai: Effects of genetic relatedness of conspecific neighbour on interspecific competition. II Joint congress on Evolutionary Biology Montpellier, France 2018.
- d-13. Yamawo A., M. Sato, H. Mukai: Effects of kin-recognition through water-soluble chemical substances of root-exudation on clonal reproduction of *Kalanchoe daigremontiana*. Annual Meeting of International Society of Chemical Ecology. Budapest, Hungary. 2018.
- d-14. Yamawo A., M. Sato, H. Mukai: Kin discrimination through root is adaptive for intraspecific competition in *Kalanchoe daigremontiana*. 8th EAFES International Congress (Nagoya University), 2018.
- d-15. 山尾 僚：自他を識別する植物たち—野生植物にみられる多様な識別システムと応答—. 植物学会シンポジウム(一芸に秀でた植物達, 企画: 福島健児), 第82回日本植物学会(広島国際会議場), 2018.
- e-01. 山尾 僚・西本 孝・波田善夫：岡山県自然保護センターの異なる森林植生におけるアリ群集. 岡山県自然保護センター報告書, **25**: 1-7, 2018.
- f-01. Yamawo A: Importance of phenotypic plasticity in plants in plant-animal interactions. 中国科学院西双版纳热带植物园セミナー(中国シーサーバナナ熱帯植物園), 2018.
- f-02. Yamawo A: Unravel the terrestrial ecosystem from plant behavior. 首都大学東京セミナー(首都大学東京), 2017.
- f-03. 山尾 僚：厄介で面白い植物の柔軟性. 岡山植生研究会, 岡山(2018年2月).
- f-04. 山尾 僚：植物の環境応答が解き明かす柔軟な防御とその進化. 第354回昆虫土曜セミナー(岡山大学), 2018.
- f-05. Ohsaki H., A. Yamawo: Variations in competitive environment of host plants promote resource partition of leaf beetles. International Research Workshop on Xishuangbanna Tropical Botanical Garden and Department of Biology (Hiroasaki University), 2018.

- f-06. Iwata M., M. Ohno, H. Koishi, A. Yamawo: Effects of mixed planting three corn cultivar and pinto beans on yield, growth and pest damage. International Research Workshop on Xishuangbanna Tropical Botanical Garden and Department of Biology (Hirotsaki University), 2018.
- f-07. Ohno M., H. Ohkawa, A. Yamawo: Effects of photoperiod on leaf-out in deciduous tree species growing in east-Asian and determination of light receptor tissues. International Research Workshop on Xishuangbanna Tropical Botanical Garden and Department of Biology (Hirotsaki University), 2018.

## 【分子生命科学科】

## 【生命科学コース】

## 姫野 倭太

- d-01. 姫野倭太：細菌におけるリボソームレスキュー機構. 2017年度生命科学系学会合同年次大会（神戸ポートアイランド）, 2017.
- d-02. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：リボソーム/ArfA/RF2複合体のクライオ電子顕微鏡による構造解析. 2017年度生命科学系学会合同年次大会（神戸ポートアイランド）, 2017.
- d-03. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：ArfAとRF2による翻訳終結機構の構造基盤. 第12回無細胞生命科学研究会（東京大学）, 2017.
- d-04. Himeno, H., A. Muto, D. Kurita: Ribosome rescue systems in bacteria. Phages, Virus, Bacteria & Hosts (Hirosaki University), 2018.
- d-05. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：クライオ電子顕微鏡によるリボソーム/ArfA/RF2翻訳停滞複合体の構造解析. 日本農芸化学会 東北・北海道合同支部大会 第153回大会（東北大学）, 2018.
- d-06. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：クライオ電子顕微鏡によるリボソーム・ArfA・RF2複合体の構造解析. 第5回リボソームミーティング（新潟大学）, 2018.

## 牛田 千里

- a-01. Koyama, T., C. Ushida: Nuclear localization of a *C. elegans* CCH-type zinc finger protein encoded by T26A8.4. *microPublication Biology*. <https://doi.org/10.17912/YHG7-JE66>, 2018.
- d-01. Ushida, C.: Functional RNomics of *C. elegans*. International Meeting on Non-mammalian models in biomedical research: current status and future (Nitte University, Mangarol, India), 2017.
- d-02. 牛田千里・尾崎大意・小山昂志・上松興生：受精卵の形に異常を示す線虫変異株への *cer-2a* 導入による表現型の回復. 2017年度生命科学系学会合同年次大会（神戸ポートアイランド）, 2017.
- d-03. 上松興生・小山昂志・牛田千里：飢餓ストレスによる *C. elegans* rRNA 前駆体の蓄積の変化. 第20回日本RNA学会年会（大阪）, 2018.
- d-04. 小山昂志・上松興生・増井達信・尾崎大意・長島徹治・鈴木拓馬・河合剛太・牛田千里：線虫 *CeR-2a* RNA欠損株 MT16939 が示す受精卵の形態異常と産卵異常. 第20回日本RNA学会年会（大阪）, 2018.
- d-05. 千葉剛大・佐藤愛海・木原真哉・牛田千里：線虫 Y RNA ホモログの発現パターンおよび細胞内局在による分類. 第20回日本RNA学会年会（大阪）, 2018.

## 高田 晃

## 森田 英嗣

- a-01. Morita, E. Membrane closure in stress induced-autophagosome formation. *Cell Stress*. 2:122-124, 2018.
- a-02. Tripathi, L.P., Y.A. Chen, K. Mizuguchi and E. Morita: Network-based analysis of host-pathogen interactions. *Encyclopedia of Bioinformatics and Computational Biology*, 3: 932-937, 2019.
- d-01. 桂巻杏莉・有本 大・田端佳介・森田英嗣：フラビウイルス複製オルガネラ形成における小胞体局在タンパク質 Lunapark の役割. 第90回日本生化学会大会, 神戸, 2017.12
- d-02. 荒川将志・田端佳介・石田幸太郎・新井亜利紗・小林万希子・有本 大・鈴木亮介・森田英嗣：フラビウイルスはVCP複合体を利用し宿主ストレス応答を制御する. 第53回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 栃木, 2018.6
- d-03. 石田幸太郎・後藤史門・天沼美里・石村麻里奈・鈴木亮介・森田英嗣：日本脳炎ウイルスキャプシド蛋白質のアラニン置換変異体群の解析. 第53回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 栃木, 2018.6
- d-04. 石田幸太郎・後藤史門・天沼美里・石村麻里奈・鈴木亮介・森田英嗣：日本脳炎ウイルスキャプシド蛋白質のアラニン置換変異体群の解析. 第72回日本細菌学会東北支部総会, 仙台, 2018.8
- d-05. 森田英嗣：フラビウイルス感染時に誘導されるウイルス複製オルガネラ形成・維持の分子機構. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018.9
- d-06. 荒川将志・瓜生慧也・工藤理帆・森田英嗣：選択的オートファジーの新規レセプター分子の同定. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018.9

- d-07. Kimura S., K. Kamata, H. Ebina, and E. Morita: Efficient VLP assembly of human parvovirus B19 VP1 and VP2 expressed mammalian and bacterial cells. 第66回日本ウイルス学会学術集会. 京都, 2018.10

### 横山 仁

- a-01. Hasugata, R., S. Hayashi, A. Kawasumi-Kita, J. Sakamoto, Y. Kamei, H. Yokoyama: Infrared laser-mediated single-cell-level gene induction in the regenerating tail of *Xenopus laevis* tadpoles. Cold Spring Harbor Protocols. E-pub (DOI: 10.1101/pdb.prot101014)
- a-02. Yokoyama, H., N. Kudo, M. Todate, Y. Shimada, M. Suzuki, K. Tamura: Skin regeneration of amphibians - A novel model for skin regeneration as adults. Development Growth and Differentiation. 60: 316-325, 2018.
- d-01. 蓮潟里帆・小林託也・越智陽城・田村宏治・横山 仁：局所的な shh の発現誘導によるツメガエルの四肢のパターン形成への影響. 日本動物学会東北支部大会 山形市, 2018年
- d-02. 嶋田侑莉・越智陽城・横山 仁：アフリカツメガエルの四肢再生における背腹軸形成機構の解析. 日本動物学会東北支部大会 山形市, 2018年
- d-03. 横山 仁：アフリカツメガエルの器官再生から見た立体器官の再生メカニズム. 第1回再生学異分野融合研究会 岡崎市, 2018年
- d-04. 蓮潟里帆・小林託也・越智陽城・田村宏治・横山 仁：局所的な shh の発現誘導による *Xenopus* の四肢のパターン形成への影響. 第1回再生学異分野融合研究会 岡崎市, 2018年
- d-05. 嶋田侑莉・越智陽城・横山 仁：アフリカツメガエルの四肢再生における背腹軸形成機構の解析. 第1回再生学異分野融合研究会 岡崎市, 2018年
- d-06. Hasugata, R., S. Hayashi, A. Kawasumi-Kita, J. Sakamoto, Y. Kamei, H. Yokoyama: Infrared Laser-Mediated Gene Induction at the Single-Cell Level in the Regenerating Tail of *Xenopus laevis* Tadpoles. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with the partner Universities 2018 弘前市, 2018年
- d-07. Shimada, Y., H. Yokoyama: Analysis of dorsal-ventral axis formation in limb regeneration of *Xenopus laevis*. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with the partner Universities 2018 弘前市, 2018年
- d-08. 横山 仁・蓮潟里帆・越智陽城・成澤勇斗・小林託也・田村宏治：両生類における局所的な遺伝子発現操作の現状について. 第12回日本ツメガエル研究集会・第4回次世代両生類研究会 合同シンポジウム 東広島市, 2018年
- d-09. 嶋田侑莉・越智陽城・横山 仁：アフリカツメガエルの四肢再生における背腹軸形成機構の解析. 第12回日本ツメガエル研究集会・第4回次世代両生類研究会 合同シンポジウム 東広島市, 2018年
- f-01. Bando, T., H. Yokoyama, H. Nakamura: Wound repair, remodeling, and regeneration. Development, Growth and Differentiation. 60: 303-305, 2018.

### 栗田 大輔

- d-01. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：クライオ電子顕微鏡によるリボソーム/ArfA/RF2 翻訳停滞複合体の構造解析. 日本農芸化学会 東北・北海道合同支部大会 第153回大会 (東北大学), 2018.
- d-02. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：クライオ電子顕微鏡によるリボソーム・ArfA・RF2 複合体の構造解析. 第5回リボソームミーティング (新潟大学), 2018.
- d-03. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：リボソーム/ArfA/RF2 複合体のクライオ電子顕微鏡による構造解析. 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (神戸ポートアイランド), 2017.
- d-04. 栗田大輔・Ma Chengying・Gao Ning・姫野倭太：ArfA と RF2 による翻訳終結機構の構造基盤. 第12回無細胞生命科学研究会 (東京大学), 2017.

### 畠山 幸紀

- f-01. 畠山幸紀：教育用 Web サイトの公開.  
<https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/course/index.php?categoryid=8> (学内限定) 2018.

## 【応用生命コース】

## 殿内 暁夫

- a-01. Li, J., C. Kudo, A. Tonouchi: Description of *Deinococcus populi* sp. nov. from the trunk surface of a Japanese aspen tree. *Arch. Microbiol.* **200**: 291–297 (2018)
- a-02. Matsumoto, M., S. Tanaka, A. Tonouchi, M. Hashimoto: 12-Deoxyroridin J and 12-Deoxyepisoridin E from *Calcarisporium arbuscular*. *Tetrahedron* **73**: 5430–5435 (2018)
- b-01. 原田幸雄・殿内暁夫・宮入一夫・山岸洋貴：白神自然観察園のきのこ (8). 弘前大学白神自然環境研究所, 2018.
- c-01. 齋藤知明・殿内暁夫：世界遺産からの自然の恵み「弘前大学白神酵母」の取組. 食品と開発 53: 80–83.
- d-01. 大坂彩瑛・殿内暁夫：白神山地に生息する植物成長促進細菌に関する研究. 日本微生物生態学会 第32回大会 (沖縄), 2018.7
- d-02. 李 帥・大田修平・林 奈央・児島 薫・殿内暁夫・吉田 孝：二種類の細菌の生産するグリコサミノグリカン分解酵素の精製と性質. 2018年度 応用糖質科学会東北支部会 (米沢), 2018.7
- d-03. 西山真未・橋本 勝・殿内暁夫：*Trichoderma* sp.1212-03の生産する新規 macrophorin 類について. 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.9
- f-01. 殿内暁夫：自然界から分離した酵母の酒造酵母としての改良. 平成29年度第2回白神酵母研究会 (弘前), 2018.3.2
- f-02. 殿内暁夫：地域の微生物を活用した弘前大学ブランドの創造. 青森ブランド価値創造研究報告会 (弘前大学), 2018.3.1
- f-03. 殿内暁夫：白神酵母のゲノムの特徴. 平成30年度第1回白神酵母研究会 (弘前), 2018.7.25

## 橋本 勝

- a-01. 橋本 勝：リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の生物有機化学, 日本農薬学会誌, **43**: 101–108, 2018.
- a-02. 橋本 勝：天然物構造決定における DFT 計算の活用, 有機合成化学協会誌, **76**: 842–850, 2018.
- a-03. Tanaka S., K. Tanaka, H. Maeda, and M. Hashimoto: Cyclohelminthols Y1-Y4 Metabolites Possessing Two Spirocyclopropanes in their Structure. *J. Org. Chem.* **83**: 5688–5697, 2018.
- a-04. Matsumoto M., S. Tanaka, A. Tonouchi, and M. Hashimoto: 12-Deoxyroridin J and 12-Deoxyepisoridin E from *Calcarisporium arbuscular*, *Tetrahedron Letters*, **59**: 1992–1995, 2018.
- d-01. 松本愛美・殿内暁夫・前多隼人・橋本 勝：12-deoxyroridin 類の単離, 2017年度 日本農芸化学会東北支部大会 (秋田), 2017.11.04
- d-02. 橋本 勝：計算機支援による天然物の構造決定, 熊本大学薬学部講演会 (招待講演, 熊本), 2017.11.14
- d-03. 計算機支援による天然物の構造決定, 東北大学理学部化学科講演会 (招待講演, 仙台), 2018.02.19
- d-04. 橋本 勝・田中静也・福士江里：Cyclohelminthol Xの単離・構造, 日本農芸化学会2018年度大会 (名古屋), 2018.03.16
- d-05. 田中静也・橋本 勝：Cyclohelminthol Yの構造, 日本農芸化学会2018年度大会 (名古屋), 2018.03.16
- d-06. 松本愛美・橋本 勝：*Calcarisporium arbuscular*の生産する roridin 類について, 日本農芸化学会2018年度大会 (名古屋), 2018.03.16
- d-07. 橋本 勝：リンゴ果実における *Lambertella*による マイコパラサイト現象の有機化学 (日本農薬学会特別講演, 秋田), 2018.5.25
- d-08. 橋本 勝・松本愛美・猪瀬航太：DFT 計算の天然物構造決定への応用, 第13回化学生態学研究会 (函館), 2018.06.22
- d-09. 橋本 勝・田中静也：Cyclohelminthol Y1-Y4の構造, 第13回化学生態学研究会 (函館), 2018.06.22
- d-10. 猪瀬航太・橋本 勝・田中和明・越野広雪：*Periconia macrospinoso* KT3863が産生する Peribysin O及びP, 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.09.24
- d-11. 橋本 勝・猪瀬航太・山田剛司：Peribysin 類の絶対配置に関する考察, 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.09.24
- d-12. 西山真未・橋本 勝・殿内暁夫：*Trichoderma* sp. 1212-03の生産する新規 macrophorin 類について, 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.09.24
- d-13. 松本愛美・西山真未・前多隼人・橋本 勝：マクロリドを含むトリコテセンは12位エポキシドが無くても毒性を示す, 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.09.24
- d-14. Tayone W.C., J.C. Tayone, M. Hashimoto: Anti-dengue potential of *Euphorbia hirta* Linn, 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 (仙台), 2018.09.24

- d-15. 田中静也・本村優奈・前多隼人・田中和明・木村賢一・上杉祥太：Cyclohelminthol X および Y の構造, 第60回天然有機化合物討論会(久留米), 2018.09.26

### 吉田 孝

- d-01. 李 帥・大田修平・林 奈央・児島 薫・殿内暁夫・吉田 孝：二種類の細菌の生産するグリコサミノグリカン分解酵素の精製と性質. 日本応用糖質科学会東北支部会(米沢市), 2018年7月.
- d-02. 成田 唯・長井真美・児島 薫・吉田 孝：タマネギ (*Allium cepa*) 由来酸性  $\alpha$ -マンノシダーゼの精製と酵素特性. 日本応用糖質科学会平成30年度大会(秋田市), 2018年9月.
- f-01. 吉田 孝：ナマコ加工廃棄物を活用したヘルスケア商品の開発. プレスリリース(東奥日報) 2017年7月25日.
- f-02. 吉田 孝：ナマコ加熱廃液から有用糖質の抽出方法の検討. 東経連アライアンス助成事業中間ヒアリング(青森市), 2018年1月.

### 坂元 君年

- a-01. Balogun EO., DK. Inaoka, T. Shiba, SM. Tokuoka, F. Tokumasu, K. Sakamoto, Y. Kido, PAM. Michels, YI. Watanabe, S. Harada, K. Kita.: Glycerol kinase of African trypanosomes possesses an intrinsic phosphatase activity. *Biochim Biophys Acta* **1861**: 2830-2842, 2017.
- d-01. Sakamoto K., N. Haruka, M. Motomichi: Identification of three ubiquinone biosynthetic Flavine monooxygenases in *Rhodobacter capsulatus*. 8th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan (東京工科大学八王子), 2017.
- d-02. Sakamoto K.: Diversity of bacterial ubiquinone biosynthesis -Identification of new group ubiquinone biosynthetic flavin monooxygenases in *Rhodobacter capsulatus*. 2018 International Symposium and Annual Meeting of KSABC (Jeju island, Korea), 2018.
- d-03. Kawamura T., H. Kasai, K. Kiyoshi, K. Sakamoto: Expression of recombinant type II NADH dehydrogenase (NDH-2) from *Cryptosporidium parvum* for screening inhibitors. 14th International Congress of Parasitology (Daegu, Korea), 2018.
- d-04. 永谷 悠・松崎素道・Fevzi Daldal・坂元君年：*Rhodobacter capsulatus*に見出した新規ユビキノン生合成フラビンモノオキシゲナーゼ. (京都国際会館), 2018.
- f-01. Sakamoto K.: Toward the reconstitution of parasites' anaerobic respiratory chain in bacteria. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with partnership universities 2018 (Hirosaki univ), 2018.
- f-02. Kawamura T., H. Kasai, K. Kiyoshi, K. Sakamoto: Expression of recombinant type II NADH dehydrogenase (NDH-2) from *Cryptosporidium parvum* for screening inhibitors. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with partnership universities 2018 (Hirosaki univ), 2018.
- f-03. Nagatani H., Y. Mae, M. Matsuzaki, F. Daldal, K. Sakamoto: New ubiquinone biosynthetic enzyme -The third flavin monooxygenase in *Rhodobacter capsulatus*-. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with partnership universities 2018 (Hirosaki univ), 2018.

### 園木 和典

- a-01. Sonoki T., K. Takahashi, H. Sugita, M. Hatamura, Y. Azuma, S. Suzuki, N. Kamimura, E. Masai: 2017. Glucose-free *cis,cis*-muconic acid production via new metabolic designs corresponding to the heterogeneity of lignin. *ACS Sustainable Chemistry and Engineering*. 6(1): 1256-1264.
- a-02. Iiyoshi R., T. Oguchi, T. Furukawa, Y. Iimura, Y. Ito, T. Sonoki: 2017. Expression of fungal laccase fused with cellulose binding domain can improve saccharification efficiency of *Arabidopsis thaliana*. *Transgenic Research*. 26(6): 753-761.
- a-03. Iimura Y., T. Sonoki, H. Habe: 2018. Heterologous expression of *Trametes versicolor* laccase in *Saccharomyces cerevisiae*. *Protein expression and purification*. 141: 39-43.
- a-04. 木村 敬・廣瀬 孝・叶 旭君・園木和典・小田昭浩・張 樹槐：2017. 成形圧力の異なるバイオコークスの物理的・化学的变化に関する研究. 日本素材物性学会誌. 29 (1-2): 7-11.
- c-01. 園木和典・政井英司：2018. 不均一なリグニン由来のフェノール類からの *cis,cis*-ムコン酸生産. *月刊BIO INDUSTRY*. 35 (6): 45-53.
- c-02. 園木和典・政井英司：2018. リグニンを炭素源としたムコン酸のバイオ生産. *バイオサイエンス&インダストリー*

(*B&I*). 76 (2): 139-141.

- d-01. 栗本祐樹・尾形拓哉・園木和典：ジメチルアリルモノリン酸合成系の探索による *cis,cis*-ムコン酸合成の効率化. 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 東北大学 (宮城県仙台市) 2018年9月22-23日.
- d-02. 東 勇太・上村直史・政井英司・園木和典：スギリグニン分解物を原料としたムコン酸生産. 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会 東北大学 (宮城県仙台市) 2018年9月22-23日.
- d-03. 杉田晴佳・栗本祐樹・上村直史・政井英司・園木和典：リグニン由来のフェノール類を唯一の炭素源とした *cis,cis*-ムコン酸生産の効率化に関わる培養要素の同定. 日本生物工学会 2018年大会 関西大学 (大阪府大阪市) 2018年9月5-7日.
- d-04. 杉田晴佳・畑村美波・上村直史・政井英司・園木和典：糖質に依存しないリグニン由来フェノール類からの *cis,cis*-ムコン酸生産. 日本農芸化学会 2018年大会 名城大学 (愛知県名古屋市) 2018年3月15-18日.
- d-05. 栗本祐樹・尾形拓哉・坂元君年・園木和典：Flavin prenyltransferase 発現によるプロトカテク酸炭酸酵素の活性化. 日本農芸化学会 2018年大会 名城大学 (愛知県名古屋市) 2018年3月15-18日.
- d-06. 園木和典・政井英司：糖質に依存しないムコン酸生産. 化学工学会金沢大会 2017 金沢市商工会議所 (石川県金沢市) 2017年12月7日.
- d-07. 市川 晋・古川佳世子・園木和典・伊藤幸博：老化期特異的セルラーゼ発現による稲わらの糖化性向上. 第12回東北育種研究集会 秋田県立大学 (秋田県秋田市) 2017年11月25日.
- d-08. 栗本祐樹・尾形拓哉・園木和典：基幹化合物生産の効率化に向けた Protocatechuate decarboxylase 反応機構の解明. 日本農芸化学会第152回東北支部大会 秋田県立大学 (秋田県秋田市) 2017年11月4日.
- d-09. 杉田晴佳・菊地晃弘・高橋健司・上村直史・政井英司・園木和典：リグニンを原料とした基幹化合物“*cis,cis*-ムコン酸”のバイオ生産. 日本農芸化学会第152回東北支部大会 秋田県立大学 (秋田県秋田市) 2017年11月4日.
- d-10. 東 勇太・菊地晃弘・顔 昊・梶田真也・園木和典：草本系栽培残渣を原料とした有用物質生産と土壤還元モデルの検討. 日本農芸化学会第152回東北支部大会 秋田県立大学 (秋田県秋田市) 2017年11月4日.
- e-01. 園木和典：科学研究費補助金報告書, 2018.
- f-01. 菊地晃弘・東 勇太・園木和典・高橋健司・上村直史・政井英司：稲わら利活用の提案—リグニンを原料としたムコン酸のバイオ生産. 青森COC+推進機構主催 青森地域グリーン産業・雇用創出促進産学交流会. アップルパレス青森 (青森県青森市) 2017年11月4日.
- f-02. 佐藤 匠・東 勇太・園木和典・高橋健司・上村直史・政井英司：農林業副産物からのポリマー原料生産. 青森COC+推進機構主催 青森地域グリーン産業・雇用創出促進産学交流会. アップルパレス青森 (青森県青森市) 2017年11月4日.

## 濱田 茂樹

- a-01. Chou, H.L., L. Tian, T. Kumamaru, S. Hamada, and T.W. Okita: Multifunctional RNA binding protein OsTuder-SN in storage protein mRNA transport and localization. *Plant Physiol.* **175**(4): 1608-1623 (2017).
- d-01. 内形 真・上田幸恵・下天摩舞・中野 洋・坂元君年・橋本 勝・濱田茂樹：イネ胚乳由来新規黄色色素 oryzamutaic acids の生合成メカニズムの解明. 日本農芸化学会東北支部第152回大会 (秋田県大)
- d-02. 石橋 諒・寺澤太志・佐々木里穂・川崎通夫・濱田茂樹：ペクチン分子が誘導するイネの根の伸長と病傷害応答. 日本農芸化学会東北支部第152回大会 (秋田県大)
- e-01. 濱田茂樹：グルテンフリー米粉パンの品質改善に関する研究. 一般財団法人旗影会 2016年度助成研究報告
- f-01. 濱田茂樹：米粉パンに適した米粉の性質とは？ アグリ・カレッジ 2018

## 【食料資源学科】

## 【食料バイオテクノロジーコース】

## 石川 隆二

- a-01. Kaewcheenchai, R., U. Promnart, K. Soontrajarn, S. Chotechuen, S. Chitrakon, H. Yuki, S. Saito, Y-I. Sato, R. Ishikawa: Diverse genetic variation in maternal lineages with high heterogeneity among in-situ conserved wild rice (*Oryza rufipogon* Griff.) developed in Thailand. *Breed. Sci.*, (In print), 2018.
- a-02. Lam, D.T., R. Ishikawa: Molecular discrimination of landraces of *Citrus* species in the Okinawa, Japan. *Genet. Resour. Crop Ev.*, (In print), 2018.
- d-01. ラム デイン ティ・湯 陵華・石川隆二：葉緑体ゲノムを利用した多角的な食用ヒシの起源に関する研究. Study on origin of edible water-chestnut by using chloroplast genome. 日本育種学会第134回秋季大会（岡山大学），2018.
- d-02. Ishikawa, R.: Grain size in Australian wild rice. The 3rd Australian Wild Rice Symposium (James Cook University), 2018.
- d-03. Ishikawa, R., T. Kataoka, L. Tang: Studies on the domestication process of Chinese edible plants, water chestnut (*Trapa bispinosa*). The eighth International Conference of the Society for East Asian Archaeology (Nanjing University), 2018.
- d-04. Tadesse, L., R. Ishikawa: Evaluation of genetic diversity in ethiopian rice cultivars based on nuclear and cytoplasmic DNA molecular markers. 日本育種学会第134回秋季大会（九州大学），2018.
- d-05. Tadesse, L., R. Ishikawa: Surveying genetic diversity in ethiopian rice cultivars as inferred by SSR markers. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-06. Lam, D.T., R. Ishikawa: Screening and characterizing cytoplasmic male sterile (CMS) in perennial wild rice populations (*Oryza rufipogon*). 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-07. 阿部晃之・石川隆二：青森県の酒米への‘恋ほのか’由来胴割れ耐性の付与. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-08. 笹森峻雅・石川隆二：イネ胴割れ耐性系統20TのSNV解析および形質評価. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-09. 三島木隆広・石川隆二：沖永良部におけるシークワサー様カンキツの特性解析. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-10. 鶴岡優希・石川隆二：ヒシのゲノムサイズ測定と次世代シーケンサーからの分子マーカー設置と多様性評価への応用. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.
- d-11. 和田真宝・菅原魁人・一谷勝之・植村真郷・石川隆二：オーストラリア固有野生イネに特徴的な小穂長形質解析. 第12回東北育種研究集会（秋田県立大学），2017.

## 千田 峰生

- a-01. Senda, M., M. Kawasaki, M. Hiraoka, K. Yamashita, H. Maeda, N. Yamaguchi: Occurrence and tolerance mechanisms of seed cracking under low temperatures in soybean (*Glycine max*). *Planta*, **248**: 369–379, 2018.
- d-01. 葦名熙公・押田和磨・齋藤 生・千田峰生：黄ダイズ栽培集団における全面着色粒の発生について. 第12回東北育種研究集会（秋田カレッジプラザ），2017.
- d-02. 山下一騎・平岡未帆・千田峰生：ダイズの種皮におけるプロアントシアニン蓄積およびリグニン沈着の比較解析. 平成29年度日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会（酪農学園大学），2017.
- d-03. 千田峰生・川崎通夫・前多隼人・平岡未帆・山下一騎・萩原誠司・山口直矢：ダイズ低温裂開の発生機構およびその抵抗性機構について. 日本育種学会第133回講演会（九州大学），2018.
- d-04. 山口直矢・萩原誠司・奥山昌隆・平井 泰・千田峰生：ダイズの低温着色抵抗性に関する検定法およびDNAマーカーの冷涼地圃場における有効性検証. 日本育種学会第133回講演会（九州大学），2018.

## 赤田 辰治

- d-01. 徳中 琢・鳥丸 猛・赤田辰治：ヤマモミジにおける葉の着色とGLYCOSYL TRANSFERASEの個体変異. 東北植物学会第7回岩手大会（岩手県），2017.

- d-02. 赤田辰治・福井忠樹・鳥丸 猛・大宮泰徳：ブナの傷害誘導性MYB遺伝子プロモーターのメチル化修飾. 第129回日本森林学会大会（高知県）, 2018.
- d-03. 塚本将司・鳥丸 猛・赤田辰治：ブナにおけるR2R3MYB遺伝子ファミリーの塩基多型の探索. 第129回日本森林学会大会（高知県）, 2018.

## 柏木 明子

- a-01. Kashiwagi, A., T. Kadoya, N. Kumasaka, T. Kumagai, F. Sano Tsushima, T. Yomo: Influence of adaptive mutations from thermal adaptation experiment on infection cycle of RNA bacteriophage Q $\beta$ . Arch. Virol., **163**: 2655–2662, 2018.
- a-02. Tanaka, C., K. Yamada, H. Takeuchi, Y. Inokuchi, A. Kashiwagi, T. Toba, Characterization of a lytic bacteriophage for controlling *Pseudomonas lactis* in raw cow's milk. Appl. Environmen. Microb., **84**: e00111–18, 2018.
- d-01. 柏木明子・宮崎珠子：RNAファージQ $\beta$ 由来RNA複製酵素の進化分子工手法による改良. 北東北女性研究者研究・交流フェア2018（いわて県民情報交流センター）, 2018.
- d-02. 西向めぐみ・柏木明子・金濱 晶・山田美和：新規エーテル型リン脂質の微生物酵素による合成と生理機能の解明. 北東北女性研究者 研究・交流フェア2018（いわて県民情報交流センター）, 2018.
- d-03. 大野美紗・柏木明子：ネコキトビアーゼの発現と機能解析. 北東北女性研究者 研究・交流フェア2018（いわて県民情報交流センター）, 2018.
- d-04. 金濱 晶・柏木明子・西向めぐみ・山田美和：微生物によるエーテル型リン脂質高生産条件の検討. 北東北女性研究者 研究・交流フェア2018（いわて県民情報交流センター）, 2018.
- d-05. 柏木明子：RNAバクテリオファージQ $\beta$ のA2相補系でのゲノム変化. 第7回ファージ研究会（麻布大学）, 2018.
- d-06. 宮塚暢子・小林操妃・加藤美紗子・柏木明子：宿主大腸菌の増殖速度上昇に寄与する寄生者Q $\beta$ 由来RNA複製酵素の進化分子工学的改変. 日本進化学会第20回大会（東京大学）, 2018.
- d-07. Kashiwagi, A.: Rapid adaptation of RNA bacteriophage to environmental changes. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with Partnership Universities 2018（弘前大学）, 2018.
- d-08. Iwamoto, T., M. Nishimukai, M. Yamada, A. Kashiwagi: Exploring efficient methods and systems for purification of phospholipase D of *Streptomyces antibioticus* using recombinant *Escherichia coli*. Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with Partnership Universities 2018（弘前大学）, 2018.
- d-09. Hossain, Md. T., A. Kashiwagi: Preparation and characterization of thermally adapted RNA bacteriophage Q $\beta$ . Agriculture and Life Science Seminar in Hirosaki University with Partnership Universities 2018（弘前大学）, 2018.
- d-10. 宮塚暢子・小林操妃・柏木明子：大腸菌の比増殖速度を指標とした高機能化Q $\beta$  RNA複製酵素取得系の構築. 2017年度日本生物工学会北日本支部 福島シンポジウム「東北、北海道から起こす酵素研究開発の潮流」（コラッセふくしま）, 2017.
- f-01. 柏木明子：微生物の話とフラスコの中での生物進化. 弘前大学研究交流カフェ（弘前大学）, 2018.
- f-02. 柏木明子：RNAバクテリオファージQ $\beta$ の高温適応実験進化における適応機構.（独）日本学術振興会「科研費NEWS」（2018年度VOL.1）, 2018.

## 田中 克典

- b-01. 小泉翔太・田中克典・上條信彦（編）：日本の出土米3. 佐藤敏也コレクションの研究2, 弘前大学人文学部北日本考古学研究センター, ISBN 9784907995065, pp.209, 2018
- d-01. Tanaka, K., K. Kato: Collection of genus Cucumis L. during the last decade and their variation in fruit and seed traits. 4th International Vavilov Conference (N. I. Vavilov Institute of Plant Genetic Resources), 2017.
- d-02. 田中克典・宇田津徹朗：イネプラント・オパール中に内在する遺伝情報抽出手法の実用化に向けた研究（第3報）. 日本文化財科学会第35回大会・2018年総会（奈良女子大学）, 2018.
- d-03. 田中克典・大庭重信・加藤鎌司：近世大坂城・城下町より出土したメロン種子のサイズおよび果実形質関連遺伝子の分析. 日本文化財科学会 第35回大会・2018年総会（奈良女子大学）, 2018.
- d-04. Tanaka, K.: DNA analysis for the rice remain from Northern Kyushu island, Japan. The 8th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (Nanjing University), 2018.
- d-05. 田中克典：コメは何処から・植物DNAから探る稲作伝来. 第62回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール『DNAから探る古代の日本列島』（明治大学駿河台キャンパス）, 2018.

- d-06. 田中克典・嶋田玄太郎・Sophea Yon・Sophany Sakhan・友岡憲彦・加藤謙司：カンボジア南部の在来メロンにおけるウリ科作物遺伝資源探索. 日本育種学会第134回講演会（岡山大学），2018.
- d-07. 嶋田玄太郎・P. M. Naznin・T. P. Dung・西田英隆・門田有希・杉山充啓・田中克典・加藤謙司：ゲノムワイドなSNPsデータを用いた国内外のメロン382系統の多様性・類縁関係の解析. 日本育種学会第134回講演会（岡山大学），2018.
- e-01. Tanaka, K., G. Shigita, Y. Sophea, V. Thun, S. Sophany, K. Kato: Collection of melon and other Cucurbitaceous crops in Cambodia in 2016. Annual Report on Exploration and Introduction of Plant Genetic Resources, **33**: 175-205, 2018.
- e-02. 田中克典：第1節 中之島蔵屋敷跡NX17-1次調査出土種子の分析. 大阪北区中之島蔵屋敷跡発掘調査報告III. pp.73-74, 2018.

## 【食品科学コース】

### 岩井 邦久

- a-01. 岩井邦久：カワラケツメイの肝機能と脂質に対する生理作用. *New Food Industry*, **59**: 29-35, 2017.
- d-01. 岩井邦久・河部有紗・武田翔子・乗鞍敏夫：マボヤのアミノ酸系および核酸系の呈味成分とその変化に関する研究. 日本食品科学工学会第63回大会（東北大学），2018.
- d-02. 岩井邦久：マタギの伝承，山の実ガマズミの栄養と機能性. 第69回日本伝統食品研究会（弘前市文化センター），2018.
- e-01. 岩井邦久：アピオスについて. 新たなヘルスケアサービス産業の創出を支える地域資源調査業務報告書（分担），2018.
- f-01. 岩井邦久：私たちは，一生にどんだけ食べるのか？～健康な食生活のために，食品の栄養，味，機能を科学的に考えてみよう～. サイエンスカフェ（青森市），2018.
- f-02. 岩井邦久：地域の食資源の付加価値を高める機能性の探索と利用. ひろさき産学官連携フォーラム第28回イブニングフォーラム（弘前大学），2018.
- f-03. 岩井邦久：青森県にある健康に役立つ食材～栄養と機能の研究から. FMアップルウェブりんご王国こうぎょくカレッジ，2017.
- f-04. 岩井邦久：食品の3つの働きを知る・・・食品科学. 八戸聖ウルスラ学院高等学校学部出張講義（八戸市），2017.
- f-05. 岩井邦久：食と人をつなぐ農学の世界. 弘前高等学校職業人講話（弘前高校），2017.

### 中島 晶

- a-01. Sobue, A., N. Ito, T. Nagai, W. Shan, K. Hada, A. Nakajima, Y. Murakami, A. Mouri, Y. Yamamoto, T. Nabeshima, K. Saito, K. Yamada: Astroglial major histocompatibility complex class I following immune activation leads to behavioral and neuropathological changes. *Glia*, **66**: 1034-1052, 2018.
- a-02. Nakajima, A., H. Sato, S. Oda, T. Yokoi: Fluoroquinolones and propionic acid derivatives induce inflammatory responses in vitro. *Cell Biol. Toxicol.*, **34**: 65-77, 2018.
- d-01. 中島 晶：機能性食品開発への応用を目指した柑橘類果皮成分ノビレチンの記憶障害改善効果とそのメカニズムに関する研究. 第20回応用薬理シンポジウム（大田区産業プラザPiO），2018.

### 佐藤 之紀

### 君塚 道史

- a-01. 君塚道史：最近気になる用語 氷点下飲料. 日本冷凍空調学会誌「冷凍」2018年8月号，第93巻1090号.
- a-02. Kobayashi, R., N. Kimizuka, M. Watanabe, F. Takenga, T. Suzuki: Property changes during frozen storage in frozen soy bean curds prepared by freezing accompanied with supercooling. *Transactions of the Japan Society of Refrigerating and Air Conditioning Engineers*, **35**(3): 269-276, 2018.
- d-01. 君塚道史：凍結時の温度履歴がグルコマンナンの力学物性におよぼす影響. 日本食品工学会第19回（2018年度）年次大会（つくば国際会議場），2018.
- d-02. 河原秀久・高橋 結・長岡康夫・君塚道史・福島敦子・川本久敏・北川 学・中村綾乃・村田和巖・伊藤成輝：過冷却促進物質エキスのエマルジョン法による過冷却能評価について. 日本食品工学会第19回（2018年度）年次

大会(つくば国際会議場), 2018.

- d-03. 君塚道史: 食品冷凍における高付加価値化技術. 日本食品工学会第19回(2018年度)年次大会(つくば国際会議場), 2018.
- d-04. 君塚道史: 懸濁水溶液における氷の再結晶化の温度依存性. 2018年度日本冷凍空調学会年次大会(日本大学工学部), 2018.

## 西塚 誠

- a-01. Goto, M., S. Osada, M. Imagawa, M. Nishizuka: FAD104, a regulator of adipogenesis, is a novel suppressor of TGF- $\beta$ -mediated EMT in cervical cancer cells. *Sci. Rep.*, **7**: 16365, 2017.
- d-01. 中野友香・成田沙智世・長田茂宏・白根道子・今川正良・西塚 誠: 脂肪細胞分化におけるCa<sup>2+</sup>活性型カリウムチャネルKca3.1の役割. 第40回 生命科学系学会合同年次大会(神戸), 2017.
- d-02. 西塚 誠: 脂肪細胞分化関連因子による上皮間葉転換制御機構. 第37回生体と金属・化学物質に関する研究会(鹿角市), 2018.
- d-03. 西塚 誠・駒田莉奈・今川正良: RhoEの発現抑制はTGF- $\beta$ 1誘導性EMTを促進する. 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会(東北支部第153回大会)(仙台), 2018.

## 前多 隼人

- a-01. Terasaki, M., H. Maeda, K. Miyashita, M. Mutoh: Induction of anoikis in human colorectal cancer cells by fucoxanthinol. *Nutrition and Cancer*, **69**: 1043–1052, 2017.
- a-02. Nanashima, N., K. Horie, H. Maeda: Phytoestrogenic activity of blackcurrant anthocyanins is partially mediated through estrogen receptor beta. *Molecules*, **23**: E74, 2017.
- a-03. Yoshizaki, A., T. Tomisawa, T. Osanai, N. Nanashima, M. Kitajima, K. Mikami, T. Fujita, H. Maeda, Y. Kato: Single oral administration of anthocyanin rescues smoking-induced endothelial dysfunction in young smokers but facilitates oxidative stress in non-smokers. *Food and Nutrition Sciences*, **9**: 179–190, 2018.
- a-04. Fang, J., H. Maeda, H. Kimura: Effects of level of fresh apple pomace in mixed silage on growth performance, meat quality and serum metabolites in finishing pigs. *Nihon Yoton Gakkaishi*, **55**: 1–11, 2018.
- a-05. Nanashima, N., K. Horie, H. Maeda, T. Tomisawa, M. Kitajima, T. Nakamura: Blackcurrant anthocyanins increase the levels of collagen, elastin, and hyaluronic acid in human skin fibroblasts and ovariectomized rats. *Nutrients*, **10**: 495, 2018.
- a-06. Terasaki, M., M. Mima, S. Kudoh, T. Endo, H. Maeda, J. Hamada, K. Osada, K. Miyashita, M. Mutoh: Glycine and succinic acid are effective indicators of the suppression of epithelial-mesenchymal transition by fucoxanthinol in colorectal cancer stem-like cells. *Oncology Reports*, **40**: 414–424, 2018.
- a-07. Senda, M., M. Kawasaki, M. Hiraoka, K. Yamashita, H. Maeda, N. Yamaguchi: Occurrence and tolerance mechanisms of seed cracking under low temperatures in soybean (*Glycine max*). *Planta*, **248**: 369–379, 2018.
- a-08. Tanaka, S., K. Tanaka, H. Maeda, M. Hashimoto: Cyclohelminthols Y1-Y4 metabolites possessing two spirocyclopropanes in their structure. *The Journal of Organic Chemistry*, **83**: 5688–5697, 2018.
- a-09. Maeda, H., S. Fukuda, H. Izumi, N. Saga: Anti-oxidant and fucoxanthin contents of brown alga *Ishimozuku* (*Sphaerotrichia divaricata*) from the west coast of Aomori, Japan. *Marine Drugs*, **16**: E255, 2018.
- a-10. Maeda, H., S. Mikami, S. Hokari, A. Nishino, T. Takaha, T. Maoka: Effects of paprika xanthophyll on chronic inflammation in adipocyte. *Carotenoid Science*, **22**: 45–46, 2018.
- b-01. Honda, M., H. Maeda, T. Fukaya, M. Goto: Chapter 8 Effects of Z-isomerization on the bioavailability and functionality of carotenoids: A Review. *Progress in Carotenoid Research*, Intech Open, 2018.
- b-02. 前多隼人・西山広亮・小館めい・福田 覚・七島直樹・堀江香代・富澤登志子・藤田俊文・北島麻衣子・加藤陽治: カシスの魅力と健康機能性. *New Food Industry*, **60**: 11–18, 2018.
- c-01. 前多隼人: オレオサイエンス第17巻第10号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.5 (2017). 日本油化学会: 518, 2017.
- c-02. 前多隼人: オレオサイエンス第17巻第11号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.6 (2017). 日本油化学会: 599, 2017.
- c-03. 前多隼人: オレオサイエンス第17巻第12号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.7 (2017). 日本油化学会: 673, 2017.
- c-04. 前多隼人: オレオサイエンス第18巻第2号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.8 (2017). 日本油化学会: 81, 2018.
- c-05. 前多隼人: オレオサイエンス第18巻第3号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.9 (2017). 日本油化学会: 156, 2018.
- c-06. 前多隼人: オレオサイエンス第18巻第4号 油脂関連情報 Inform Vol.28, No.10 (2017). 日本油化学会: 210, 2018.

- c-07. 前多隼人：オレオサイエンス第18巻第6号 油脂関連情報 Inform Vol.29, No.1 (2018). 日本油化学会: 297, 2018.
- c-08. 前多隼人：オレオサイエンス第18巻第7号 油脂関連情報 Inform Vol.29, No.2 (2018). 日本油化学会: 358-359, 2018.
- c-09. 前多隼人：オレオサイエンス第18巻第8号 油脂関連情報 Inform Vol.29, No.3 (2018). 日本油化学会: 420, 2018.
- c-10. 前多隼人：オレオサイエンス第18巻第9号 油脂関連情報 Inform Vol.29, No.4 (2018). 日本油化学会: 474, 2018.
- c-11. 前多隼人・泉ひかり・福田 覚：カロテノイドの機能性研究と有用食品素材の探索. アグリバイオ 2018年6月号, 2: 58-62, 2018.
- c-12. 前多隼人・泉ひかり・福田 覚：カロテノイドの機能性研究と有用食品素材の探索. アグリバイオ 2018年7月臨時増刊号, 2: 72-76, 2018.
- c-13. 前多隼人：もっと上手にもっと楽しく 黒ニンニクのうまい話「うまさとパワーの秘密はメイラード反応にあり 黒ゴボウもいい」. 現代農業, 97: 292-293, 2018.
- d-01. 松本愛美・殿内暁夫・前多隼人・橋本 勝：12-deoxyrivoridin類の単離. 日本農芸化学会東北支部大会（秋田市）, 2017.
- d-02. Hosomi, R., Y. Ikeda, H. Maeda, M. Yoshida, K. Fukunaga: Differential effects of cod and tuna proteins on liver lipid accumulation in obesity/diabetes *ob/ob* mice. The 10th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals & Functional Foods (Korea), 2017.
- d-03. 池田祐生・細見亮太・前多隼人・下埜敬紀・神田靖士・西山利正・吉田宗弘・福永健治：肥満/2型糖尿病 *ob/ob* マウスの盲腸内細菌叢に及ぼす白身魚および赤身魚由来タンパク質摂取の影響. 2017年度生命科学系学会合同年次大会（神戸市）, 2017.
- d-04. 千田峰生・川崎通夫・前多隼人・平岡未帆・山下一騎・萩原誠司・山口直矢：ダイズ低温裂開の発生機構およびその抵抗性機構について. 日本育種学会第133回講演会（福岡市）, 2018.
- d-05. Manabe, S., H. Maeda: Effects of dietary sea cucumber on lipid metabolism of liver in obesity model KK-*A*<sup>y</sup> mice. International Symposium on Innovative Agriculture and Fishery (ISIAF 2018), (Morioka), 2018.
- d-06. Kubota, M., A. Tonouchi, H. Maeda: Functional components of wild mushrooms from Tsugaru area, Aomori Japan. International Symposium on Innovative Agriculture and Fishery (ISIAF 2018), (Morioka), 2018.
- d-07. 福田 覚・泉 慎也・泉ひかり・嵯峨直恆・前多隼人：青森市産完熟トマトを利用した加工品開発の事例紹介. 産学連携学会大会（山口市）, 2018.
- d-08. 前多隼人：食品に含まれるカロテノイドの機能性研. 第30回夏期油脂・コレステロール研究会（鶴岡市）, 2018.
- d-09. 齋藤知明・横山智久・川畑咲絵・前多隼人：酒造好適米「華さやか」に含まれるプログルテリンによる難消化性作用. 日本食品科学工学会第65回大会（仙台市）, 2018.
- d-10. 鈴木貴大・藤林美里・前多隼人・佐野輝男：黄化・壊疽症状を示すジャガイモやせいもウイルス感染トマト葉における活性酸素種の発生量解析. 平成30年度日本植物病理学会東北部会（山形市）, 2018.
- d-11. 真鍋彰悟・前多隼人：マナマコ, フジナマコ粉末摂取による肝臓脂質蓄積抑制作用. 平成30年度日本水産学会秋季大会（東広島市）, 2018.
- d-12. 松本愛美・西山真未・前多隼人・橋本 勝：マクロリドを含むトリコセンは12位エポキシドが無くても毒性を示す. 日本農芸化学会東北・北海道合同支部大会（仙台市）, 2018.
- d-13. 七島直樹・堀江香代・冨澤登志子・北島麻衣子・前多隼人：エストロゲン受容体 $\beta$ を介したカシスアントシアニンのフィトエストロゲン作用. 第91回日本生化学会大会（京都市）, 2018.
- f-01. 前多隼人：あぶらのおいしさと健康の科学. 第9回弘前大学食料科学研究所出張サイエンスカフェ講師（弘前市）, 2017.
- f-02. 前多隼人：身近な食べ物に含まれる食品成分の化学分析. 平成29年度南陵サイエンスセミナーⅢ（弘前市）, 2017.
- f-03. 前多隼人：今日から役立つ！食と健康の話. とうしん大学第4回講座黒石会場（黒石市）, 2017.
- f-04. 前多隼人：今日から役立つ！食と健康の話. とうしん大学第4回講座弘前会場（弘前市）, 2017.
- f-05. 前多隼人：第18回青森県高等学校理数系課題研究発表会 助言者（弘前市）, 2017.
- f-06. 前多隼人：カシスアントシアニンの分析及び肥満による病態生理に対する機能性の検討. 第2回弘前大学カシス研究グループセミナー（函館市）, 2018.
- f-07. 前多隼人：カシスアントシアニンの分析及び慢性炎症疾患の改善作用. カシスの新規保健機能研究発表会・あおもりカシスフルコースお披露目会（弘前市）, 2018.
- f-08. 前多隼人：健康と食品のつながりを科学する. ひろだいナビゲート・キャラバンin三本木高校（十和田市）, 2018.

**山元 涼子**

- a-01. Yamamoto, R., H. Minami, H. Matsusaki, M. Sakashita, N. Morita, O. Nishimiya, N. Tsutsumi, M. Hosokawa, Y. Itabashi, T. Matsui, K. Ura: Consumption of the edible sea urchin *Mesocentrotus nudus* attenuates body weight gain and hepatic lipid accumulation in mice. *J. Funct. Foods*, **47**: 40–47, 2018.
- a-02. Ishibashi, H., M. Uchida, K. Yoshimoto, Y. Imamura, R. Yamamoto, Y. Ikenaka, M. Kawai, N. Ichikawa, Y. Takao, N. Tominaga, Y. Ishibashi, K. Arizono: Occurrence and seasonal variation of equine estrogens, equilin and equilenin, in the river water of Japan: Implication with endocrine- disrupting potentials to Japanese medaka (*Oryzias latipes*). *Environ. Pollut.*, **239**: 281–288, 2018.
- a-03. 白土英樹・山口千紘・吉村歩奈美・中村早百合・山元涼子：栽培方法の相違が樹成り熟成‘不知火’の品質におよぼす影響. 果汁協会報, **716**: 1–9, 2018.
- d-01. 山元涼子・南 久則・松崎弘美・坂下真実・森田直樹・西宮 攻・堤 尚信・細川雅史・板橋 豊・松井利郎・浦和 寛：ウニ生殖巣投与がマウスの体重および肝臓の脂肪蓄積に及ぼす影響. 日本食品科学工学会第65回大会(東北大学), 2018.
- d-02. 白土英樹・松田奈那・太田恵里花・濱田康太郎・末永貴史・小椋綾乃・山元涼子・中村早百合：調味料としての赤酒の特性. 日本食品科学工学会第65回大会(東北大学), 2018.
- d-03. 広田菜々・平野将司・石橋弘志・山元涼子・高本亜希子・有菌幸司：In silico試験系を用いたパラオキシ安息香酸エチルのエストロゲン作用の評価. 環境ホルモン学会第20回研究発表会(神戸大学), 2017.

**【食料生産環境コース】****青山 正和**

- d-01. 青山正和：親水性相互作用クロマトグラフィーによる腐植酸・フルボ酸構成成分の分離. 日本腐植物質学会第33回講演会(山口大学), 2017.
- d-02. 青山正和・佐藤 敦・頼 泰樹・郭 晞明：中国吉林省の強アルカリ土壌の有機物—アルカリスポットと畑地の比較—. 日本ペドロジー学会2018年度大会(名城大学), 2018.
- d-03. 青山正和：植物遺体の分解過程で土壤微生物が生成するフルボ酸の性状. 日本土壤微生物学会2018年度大会(広島大学), 2018.
- d-04. 青山正和：高速液体クロマトグラフィーによる土壤腐植酸構成成分の解析. 日本土壤肥料学会2018年度神奈川大会(日本大学), 2018.
- d-05. Aoyama, M., D. Sawame: Separation of the constituents of fulvic acids by HILIC and RP-HPLC. The 19th Meeting of the International Humic Substances Society (Albena Resort, Bulgaria), 2018.
- f-01. 青山正和：土づくりの基礎—土壤微生物の働きと有機物の役割について. 放送大学青森学習センター講演会(つがる市立図書館), 2015.

**佐野 輝男**

- a-01. Xia, C.J., S.F. Li, W.Y. Hou, Z.F. Fan, H. Xiao, M.G. Lu, T. Sano, Z.X. Zhang: Global transcriptomic changes induced by infection of cucumber (*Cucumis sativus* L.) with mild and severe variants of hop stunt viroid. *Front. Microbiol.* **8**: 2427, 2017.
- a-02. Nekoduka, S., T. Sano: Symptom development, in planta distribution and transmission of Impatiens necrotic spot virus in gentian: Evidence for survival in root and winter bud. *J. Gen. Pl. Pathol.*, **84**: 279–283, 2018.
- a-03. Di Serio, F., S.F. Li, J. Matoušek, R.A. Owens, V. Pallás, J.W. Randles, T. Sano, J.Th.J. Verhoeven, G. Vidalakis, R. Flores: ICTV Consortium ICTV Virus Taxonomy Profile: Avsunviroidae. *J. Gen. Virol.*, **99**: 611–612, 2018.
- a-04. Nekoduka, S., K. Tanaka, T. Sano: Epidemiology of apple bitter rot caused by *Colletotrichum acutatum* sensu lato. *J. Gen. Pl. Pathol.*, **84**: 262–271, 2018.
- a-05. Tsushima, T., T. Sano: A point-mutation of Coleus blumei viroid 1 switches the potential to transmit through seed. *J. Gen. Virol.* **99**: 393–401, 2018.
- a-06. Adkar-Purushothama, C.R., T. Sano, J-P. Perreault: Transient expression of viroid derived small RNA induces early flowering in tomato plants by RNA silencing. *Mol. Plant Pathol.*, DOI: 10.1111/mpp.12721, 2018.
- a-07. Mishra, A.K., G.S. Duraisamy, M. Khare, T. Kocábek, J. Jakse, J. Bríza, J. Patzak, T. Sano, J. Matoušek: Genome wide transcriptome profiling of transgenic hop (*Humulus lupulus*) constitutively overexpressing HIWRKY1 and

HIWDR1 transcription factors. *BMC Genomics*, **19**: 739, 2018.

- d-01. Sano, T.: Variation, molecular structure and pathogenicity of viroid – a non-coding RNA pathogen. ISF/ISHI-Veg Meetings, (Osaka, TKP Shin-Osaka Business Center), 2017. (invited speaker)
- d-02. 鈴木貴大・林 勇作・菅原康平・藤林美里・葛西厚史・佐野輝男：ウイロイド感染植物の矮化・葉巻症状に関連する宿主遺伝子の解析. 平成30年度日本植物病理学会大会（神戸市・神戸国際会議場）, 2018.
- d-03. 直井 崇・畑谷達児・葛西厚史・佐野輝男：トマトのRDR6はジャガイモやせいもウイロイド（PSTVd）の初期増殖と茎頂分裂組織内部への侵入を抑制する. 平成30年度日本植物病理学会大会（神戸市・神戸国際会議場）, 2018.
- d-04. Suzuki, T., M. Fujibayashi, T. Sano: Selection of AFCVd variants with severe and mild symptom on tomato fruits. International Conference on Viroids and Viroid-like RNAs (Valencia, Spain), 2018.
- d-05. Suzuki, T., A. Kasai, M. Fujibayashi, T. Sano: Susceptibility to viroid infection of tomato plant in which RNA silencing key factors – AGO2, RDR6, or DCL2 & 4 – is knocked down. International Conference on Viroids and Viroid-like RNAs (Valencia, Spain), 2018.
- d-06. Matoušek, J., L. Steinbachová, U.K. Killi, A.K. Mishra, T. Sano, D. Honys, G. Steger: Elimination of apple fruit crinkle viroid (AFCVd) during anther development and its depressed propagation in pollen of *Nicotiana tabacum*. International Conference on Viroids and Viroid-like RNAs (Valencia, Spain), 2018.
- d-07. Zhang, Z.X., C.J. Xia, W.Y. Hou, Z.F. Fan, T. Sano, S.F. Li: Identification and characterization of miRNAs in cucumber and their responses to hop stunt viroid (HSVd) infection. International Conference on Viroids and Viroid-like RNAs (Valencia, Spain), 2018.
- d-08. 北林奨也・対馬大希・Adkar-Purushothama CR・佐野輝男：ジャガイモやせいもウイロイド（PSTVd）の42塩基の変異がもたらす弱毒化機構の分析. 平成30年度日本植物病理学会東北部会（山形市・山形大学）, 2018.
- d-09. 鈴木貴大・藤林美里・前多隼人・佐野輝男：黄化・壞疽症状を示すジャガイモやせいもウイロイド感染トマト葉における活性酸素種の発生量解析. 平成30年度日本植物病理学会東北部会（山形市・山形大学）, 2018.

## 金児 雄

- a-01. Suang, S., T. Singtripop, Chantawannakul, K. Hiruma, Y. Kaneko, M. Manaboon: Cloning and Developmental Expression of Methoprene-tolerant (Met) in Diapausing Larvae of the Bamboo Borer, *Omphisa fuscidentalis* Hampson. *Chiang Mai J. Sci.*, **45**: 2303–2311, 2018.
- d-01. 金児 雄・比留間潔：Target of Rapamycin (TOR) による Verson's gland 細胞死コミットメントの誘導. 日本蚕糸学会第88回大会（名古屋大学）, 2018.
- d-02. 由利昂大・金児 雄・佐原 健：幼若ホルモンと20Eがカイコ精子産生に及ぼす影響. 日本蚕糸学会第88回大会（名古屋大学）, 2018.
- d-03. 佐原 健・松本祐希名・吉戸敦生・川本宗孝・安河内祐二・金児 雄：モノソミーカイコの後代. 日本蚕糸学会第88回大会（名古屋大学）, 2018.
- d-04. Sahara, K., A. Yoshido, Y. Kaneko: A fate of sex chromosomes and its partners in sex-limited yellow cocoon (Sy) strain of *Bombyx mori*. 6th Asia-Pacific Chromosome Colloquium (Canberra, Australia), 2018.

## 田中 和明

- a-01. Tanaka, K., A. Hashimoto, M. Matsumura, T. Sato: *Brevicollum*, a new genus in Neohendersoniaceae, Pleosporales. *Mycologia*, **109**: 608–619, 2017.
- a-02. Wijayawardene, N.N., K.D. Hyde, K.C. Rajeshkumar, D.L. Hawksworth, H. Madrid, P.M. Kirk, U. Braun, R.V. Singh, P.W. Crous, M. Kukwa, R. Lücking, C.P. Kurtzman, A. Yurkov, D. Haelewaters, A. Aptroot, H.T. Lumbsch, E. Timdal, D. Ertz, J. Etayo, A.J.L. Phillips, J.Z. Groenewald, M. Papizadeh, L. Selbmann, M.C. Dayarathne, G. Weerakoon, E.B.G. Jones, S. Suetrong, Q. Tian, R.F. Castañeda-Ruiz, A. H. Bahkali, K.L. Pang, K. Tanaka, D.Q. Dai, J. Sakayaroj, M. Hujslová, L. Lombard, B.D. Shenoy, A. Suija, S.S.N. Maharachchikumbura, K.M. Thambugala, D.N. Wanasinghe, B.O. Sharma, S. Gaikwad, G. Pandit, L. Zucconi, S. Onofri, E. Egidi, H.A. Raja, R. Kodsueb, M.E.S. Cáceres, S. Pérez-Ortega, P.O. Fiuza, J.S. Monteiro, L.N. Vasilyeva, R.G. Shivas, M. Prieto, M. Wedin, I. Olariaga, A.A. Lateef, Y. Agrawal, S.A.S. Fazeli, M.A. Amoozegar, G.Z. Zhao, W.P. Pfliegler, G. Sharma, M. Oset, M.A. Abdel-Wahab, S. Takamatsu, K. Bensch, N.I. de Silva, A. De Kesel, A. Karunarathna, S. Boonmee, D.H. Pfister, Y.Z. Lu, Z.L. Luo, N. Boonyuen, D.A. Daranagama, I.C. Senanayake, S.C. Jayasiri, M.C. Samarakoon,

- X.Y. Zeng, M. Doilom, L. Quijada, S. Rampadarath, G. Heredia, A.J. Dissanayake, R.S. Jayawardana, R.H. Perera, L.Z. Tang, C. Phukhamsakda, M. Hernández-Restrepo, X. Ma, S. Tibpromma, L.F.P. Gusmao, D. Weerahewa, S.C. Karunaratna: Notes for genera: Ascomycota. *Fungal Diversity*, **86**: 1-594, 2017.
- a-03. Hashimoto, A., K. Hirayama, H. Takahashi, M. Matsumura, G. Okada, C.Y. Chen, J.W. Huang, M. Kakishima, T. Ono, K. Tanaka: Resolving the *Lophiostoma bipolare* complex: Generic delimitations within Lophiostomataceae. *Studies in Mycology*, **90**: 161-189, 2018.
- a-04. Tanaka, S., K. Tanaka, H. Maeda, M. Hashimoto: Cyclohelminthols Y1-Y4 metabolites possessing two spirocyclopropanes in their structure. *Journal of Organic Chemistry*, **83**: 5688-5697, 2018.
- a-05. Nekoduka, S., K. Tanaka, T. Sano: Epidemiology of apple bitter rot caused by *Colletotrichum acutatum* sensu lato. *Journal of General Plant Pathology*, **84**: 262-271, 2018.
- a-06. Hashimoto, A., Y. Sasaki, Y. Harada, K. Tanaka: *Collapsimycopappus*: A new leaf pathogen with mycopappus-like propagules in Mycosphaerellaceae. *Forest Pathology*, **48**: e12452. doi.org/10.1111/efp.12452, 2018.
- f-01. 田中和明・橋本 陽・佐藤美紗季・小野 剛・佐藤豊三：小笠原諸島産微小子の菌類の同定と多様性. *微生物遺伝資源利用マニュアル*, **39**: 1-22, 2017.

### 松山 信彦

- a-01. Torimaru, T., S. Suzuki, M. Matsushita, N. Matsuyama, S. Akada: Effects of soil properties and clonal growth on the apparent sex ratio of the flowering stems of the dioecious clonal shrub *Aucuba japonica* var. borealis growing in an evergreen coniferous secondary forest. *Acta Oecologia*, **91**: 91-100, 2018.
- b-01. 松山信彦：畑の土壌. *土壌サイエンス入門第2版*, 木村真人・南條正巳編, pp.39-49, 文永堂, 東京, 2018.
- d-01. 松山信彦・對馬 慶・藤澤春樹・加藤千尋・佐々木長市：肥料三要素の接触施肥量が草型の異なる水稻の生育・収量に及ぼす影響. 2018年日本土壌肥料学会講演会(神奈川), 2018.
- d-02. 藤澤春樹・谷川法聖・齋藤雅人・松山信彦：青森県水田土壌における交換性石灰の低下が塩基交換容量に及ぼす影響. 2018年日本土壌肥料学会講演会(神奈川), 2018.
- d-03. Jinhun, F., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, S. Li, K. Sasaki: Influence of percolation patterns on copper uptake, and growth and yield with copper-polluted stratified paddy fields. 9th International Conference of Environmental and Rural Development (Myanmar), 2018.

### 管原 亮平

- a-01. Sugahara, R., S. Tanaka, A. Jouraku, T. Shiotsuki: Identification of a transcription factor that functions downstream of corazonin in the control of desert locust gregarious body coloration. *Insect Biochem. Mol. Biol.*, **97**: 10-18, 2018.
- a-02. Tanaka, S., H. Sakamoto, T. Hata, R. Sugahara: Hatching synchrony is controlled by a two-step mechanism in the migratory locust *Locusta migratoria* (Acrididae: Orthoptera): Roles of vibrational stimuli. *J. Insect Physiol.*, **107**: 125-135, 2018.
- a-03. Sugahara, R., S. Tanaka: Environmental and hormonal control of body color polyphenism in late-instar desert locust nymphs: Role of the yellow protein. *Insect Biochem. Mol. Biol.*, **93**: 27-36, 2018.
- a-04. Sugahara, R., S. Tanaka, T. Shiotsuki: RNAi-mediated knockdown of SPOOK reduces ecdysteroid titers and causes precocious metamorphosis in the desert locust *Schistocerca gregaria*. *Dev. Biol.*, **429**: 71-80, 2017.
- d-01. 管原亮平・田中誠二：ホルモンと環境による Takeout 黄化遺伝子を介したサバクトビバッタの体色制御. 第62回日本応用動物昆虫学会大会(鹿児島大学), 2018.
- d-02. 管原亮平：バッタ研究を通して学んだ実験の進め方. 第62回日本応用動物昆虫学会大会(鹿児島大学), 2018.
- d-03. Tanaka, S., H. Sakamoto, T. Hata, R. Sugahara: Why do locust eggs hatch early if Mozart is played? 第4回生物音響学会年次研究発表会(電気通信大学), 2017.
- f-01. 管原亮平：昆虫ミトコンドリア膜タンパク質とバッタの研究—6年間のまとめ. 第125回昆虫セミナー(農研機構大わし), 2018.

## 【国際園芸農学科】

## 【園芸農学コース】

## 荒川 修

- d-01. 荒川 修・安 松浩・田中紀充：青色光がモモ果実のアントシアニン生成に及ぼす影響. 園芸学会 (鹿児島大学). 園学研, 17 (別2): 384, 2018.
- d-02. 安 松浩・荒川 修・小林 勝・田中紀充：光照射がサクラ‘ソメイヨシノ’花卉の着色に及ぼす影響. 園芸学会 (近畿大学). 園学研, 17 (別1): 434, 2018.
- d-03. 田中紀充・河野祐汰・山本幸助・松本省吾・小森貞男・荒川 修：種子の有無による植物成長調節剤がリングの果実肥大に及ぼす影響. 園芸学会 (近畿大学). 園学研, 17 (別1): 282, 2018.
- d-04. 田中紀充・鈴木真由・松田智哉・松本省吾・小森貞男・荒川 修：開花前後の温度がリングの果形に及ぼす影響. 園芸学会東北支部平成30年度大会 (コラッセ福島). 園芸学会東北支部平成30年度大会発表要旨: 11, 2018.
- d-05. 張 樹槐, 荒川 修, 結城伸哉, 大久保達矢, 叶 旭君：機械学習による着色系リングの枝変わり品種判別法の開発, 農業環境工学関連学会2018年合同大会 (CDROM, 愛媛大学), 2018.

## 張 樹槐

- a-01. 木村 敬・廣瀬 孝・叶 旭君・園木知典・小田昭浩・張 樹槐：成形圧力の異なるバイオコークスの物理的・化学的变化に関する研究. 日本素材物性学会誌, 29 (1/2), 1-5, 2018.
- a-02. Ye, X., T. Izawa, S. Zhang: Rapid determination of lycopene content and fruit grading in tomatoes using a smart device camera. Cogent Engineering, 5(1), 1504499, 2018.
- d-01. 叶 旭君・阿部汐里・張 樹槐・芳村裕之：ライスクャンを用いたリング樹の栄養状態評価のための簡易な葉色指数とカラーチャートの開発, 農業環境工学関連学会2018年合同大会 (CDROM, 愛媛大学), 2018.
- d-02. 張 樹槐・荒川 修・結城伸哉・大久保達矢・叶 旭君：機械学習による着色系リングの枝変わり品種判別法の開発, 農業環境工学関連学会2018年合同大会 (CDROM, 愛媛大学), 2018.
- d-03. 煙山智司・叶 旭君・吉川元起・張 樹槐：新規ニオイセンサーMSSを利用した魚肉の新鮮度推定, 農業食料工学会北海道・東北支部2018年次大会講演要旨 (宮城大学), 44~45, 2018.
- d-04. 叶 旭君・高橋留衣・芳村裕之・張 樹槐：りんご“こうこう”の熟度判定へのフルーツスキャンの応用, 農業食料工学会北海道・東北支部2018年次大会講演要旨 (宮城大学), 52~53, 2018.
- f-01. 張 樹槐：[密着 Document] においセンサー (6)「果物の食べ頃 瞬時に判断」, 読売新聞, 2018年05月21日
- f-01. 張 樹槐・煙山智司：魚肉の新鮮度推定へのMSSの応用, MEMSセンシング&ネットワークシステム展 2018, 10月17日-19日, 幕張メッセ, 2018.

## 前田 智雄

- a-01. Maeda T., A. Watanabe, D.Z. Wambrauw, S. Osanail, K. Honda, S. Oku, H. Shimura, T. Suzuki, A. Yamasaki, Y. Okabe, K. Ueno, S. Onodera: Analysis of varietal differences in the fructo-oligosaccharide accumulation profile among onion (*Allium cepa* L.) cultivars grown by spring-sown cultivation. Hort. J., 86(4): 501-510, 2017.
- a-02. 奥 聡史・前田智雄・平川直人・平野里美・佐々木雄輝・村木美保・D.Z. Wambrauw・小山内祥代・本多和茂・鈴木 卓・山崎 篤：青森県におけるタマネギ春まき作型に適した品種評価. 園芸学研究, 17: 359-367, 2018.
- d-01. 宮下愛美・本多和茂・前田智雄：日本に帰化したセリバヒエンソウの種子繁殖戦略. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2017.
- d-02. 熊谷 泉・本多和茂・勝川健三・荒矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・前田智雄・石川幸男：カタクリの栄養繁殖は鱗茎付属体からの不定芽形成により可能となる. 第65回日本生態学会大会 (札幌コンベンションセンター), 2017.
- d-03. 奥 聡史・志村華子・前田智雄・実山 豊・鈴木 卓：MALDI-TOF Imaging MSを利用したタマネギ鱗茎におけるフルクタン分布の可視化. 園芸学会 (酪農学園大学). 園学研 16別2: 238. 2017.
- d-04. 本多和茂・荒矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・熊谷 泉・前田智雄・勝川健三・石川幸男：カタクリ (*Erythronium japonica*) のりん茎付属部を用いた増殖・栽培効率化の試み. 園芸学会 (酪農学園大学). 園学研 16別2: 546. 2017.
- d-05. 稲田雅史・白川結美子・佐藤純世・山田恵美・山田和輝・関村真梨歩・本多和茂・前田智雄：TSWV抵抗性の導入を目的とした‘弘前在来’トウガラシと‘TSRみおぎ’との交雑育種. 園芸学会. (近畿大学). 園学研 17別1: 362.

2018.

- d-06. 唐 天利・今井峻平・田口 巧・加藤綾夏・池浦博美・前田智雄・元木 悟：アスパラガスにおける機能性成分（ルチンおよびプロトディオシン）の部位間差. 園芸学会（近畿大学）. 園学研17別1: 373, 2018.
- d-07. 奥 聡史・志村華子・鶴田 遊・上野敬司・小野寺秀一・前田智雄・実山 豊・鈴木 卓：タマネギ鱗茎のフルクトオリゴ糖蓄積に及ぼすフルクタン代謝解析. 園芸学会（近畿大学）. 園学研17別1: 383, 2018.
- d-08. 徐 楊・本多和茂・前田智雄：中国におけるデルフィニウム属遺伝資源の把握と異倍数体園芸品種間での交雑. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 23-24, 2018.
- d-09. 青沼彩菜・本多和茂・前田智雄・小林 勝・橋場真紀子・海老名雄次：弘前公園におけるサクラの種子発芽までに要する期間の短縮. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 25-26, 2018.
- d-10. 井田悠太・前田智雄・渡部朋子・宮原さくら・古屋美波・及川愛貴・本多和茂・小山内祥代：青森県におけるタマネギ (*Allium cepa* L.) のセット球栽培に関する研究. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 39-40, 2018.

### 松崎 正敏

- d-01. 松崎正敏：日本の赤身牛肉生産とその流通（基調講演）. 第14回資源循環型肉牛生産シンポジウム2017（とちぎプラザ, 帯広市）, 2017.
- d-02. 松崎正敏・木村 中・大木貴博・伊藤文彰・横山風佳・房家シン・鈴木裕之：哺育中母めん羊のタンパク栄養強化が産子の発育および血液成分に及ぼす影響. 日本畜産学会第124回大会（東京大学, 東京都文京区）, 2018.
- d-03. 梅木直哉・姜 東鎮・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕をイネWCSに混合して調製したサイレージの化学組成, 発酵品質及び嗜好性に関する研究. 2018年度日本草地学会熊本大会（くまもと県民交流館パレア, 熊本市）, 2018.
- d-04. 松崎正敏・梅木直哉・木村 中・房家シン：発酵パターンの異なるリンゴ粕混合発酵飼料給与がめん羊の血中成分に及ぼす影響. 東北畜産学会第68回大会（秋田市にぎわい交流館AU, 秋田市）, 2018.

### 本多 和茂

- a-01. 奥 聡史・前田智雄・平川直人・平野里美・佐々木雄輝・村木美保・D.Z. Wambrauw・小山内祥代・本多和茂・鈴木 卓・山崎 篤：青森県におけるタマネギ春まき作型に適した品種評価. 園芸学研究. 17: 359-367, 2018.
- d-01. 宮下愛美・本多和茂・前田智雄：日本に帰化したセリバヒエンソウの種子繁殖戦略. 第65回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター）, 2017.
- d-02. 熊谷 泉・本多和茂・勝川健三・荒矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・前田智雄・石川幸男：カタクリの栄養繁殖は鱗茎付属体からの不定芽形成により可能となる. 第65回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター）, 2017.
- d-03. 勝川健三・小山内圭吾・本多和茂：カタクリの鱗茎付属部は母球の底盤部に由来する. 第65回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター）, 2017.
- d-04. 稲田雅史・白川結美子・佐藤純世・山田恵美・山田和輝・関村真梨歩・本多和茂・前田智雄：TSWV抵抗性の導入を目的とした‘弘前在来’トウガラシと‘TSRみおぎ’との交雑育種. 園芸学会（近畿大学）. 園学研17別1: 362, 2018.
- d-05. 徐 楊・本多和茂・前田智雄：中国におけるデルフィニウム属遺伝資源の把握と異倍数体園芸品種間での交雑. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 23-24, 2018.
- d-06. 青沼彩菜・本多和茂・前田智雄・小林 勝・橋場真紀子・海老名雄次：弘前公園におけるサクラの種子発芽までに要する期間の短縮. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 25-26, 2018.
- d-07. 井田悠太・前田智雄・渡部朋子・宮原さくら・古屋美波・及川愛貴・本多和茂・小山内祥代：青森県におけるタマネギ (*Allium cepa* L.) のセット球栽培に関する研究. 園芸学会東北支部会（福島市）. 園学要旨. 平30東北支部: 39-40, 2018.
- e-01. 石川幸男・本多和茂. 大沢川朝日股沢源流部の植生概況と廻行記録（2017年7月29～31日）. 白神研究第13号: 12-38, 2018.
- f-01. 岩間直子・小堀真珠子・本多和茂：発開示16-22. NO産生抑制剤. 公開特許公報（A）JP 2018-135294 A 2018.8.30
- f-02. 岩間直子・小堀真珠子・本多和茂：発開示16-23. TNF $\alpha$ 産生抑制剤. 公開特許公報（A）JP 2018-135328 A 2018.8.30

## 川端 二功

- a-01. Yoshida, Y., F. Kawabata, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Short-term perception of and conditioned taste aversion to umami taste, and oral expression patterns of umami taste receptors in chickens. *Physiol. Behav.*, 191: 29-36, 2018.
- a-02. Dey B, F. Kawabata, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Bitter taste sensitivity and the expression of bitter taste receptors at different growth stages of chicks. *J. Poult. Sci.*, 55: 204-209, 2018.
- a-03. Kawabata Y, F. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Oral lipase activities and fat-taste receptors for fat-taste sensing in chickens. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 495: 131-135, 2018.
- a-04. Yoshida Y, F. Kawabata, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Expression levels of taste-related genes in palate and tongue tip, and involvement of TRPM5 in taste sense in chickens. *Anim. Sci. J.*, 89: 441-447, 2018.
- a-05. Nishimura S, M. Yamashita, T. Kaneko, F. Kawabata, S. Tabata: Cytokeratin-positive folliculo-stellate cells in the chicken adenohypophysis. *Anim. Sci. J.*, 88: 1835-1841, 2017.
- a-06. Nishimura S, A. Teshima, F. Kawabata, S. Tabata: Estradiol inhibits hepatic stellate cell area and collagen synthesis in the chicken liver. *Anim. Sci. J.*, 88: 1827-1834, 2017.
- d-01. Kawabata F., Y. Kawabata, Y. Yoshida, B. Dey, N. Hirose, R. Sawamura, H. Omori, M. Higashida, S. Nishimura, S. Tabata: Taste systems in chickens. English Poster Session "Meet the Professor", 121th Annual meeting of Japan Poultry Science Association (Tohoku University), 2018.
- d-02. 川端二功：ニワトリはどのように味を感じているのか？～ニワトリの味覚機能の理解と畜産への応用～. 九州大学関西同窓会 2018年公開講座（ハートンホテル北梅田）, 2018.
- d-03. 川端二功：ニワトリにおける甘味とコク味の味覚受容機構. (公社)日本畜産学会主催・(一財)旗影会協賛 第3回若手企画サイエンスキャンプ ～アニマルサイエンスのフロンティア～ (広島大学), 2018.
- d-04. 川端二功・鹿島康浩・裴 準・加藤梨那・西村正太郎・田畑正志・松川泰治：ナノ化したホエイタンパク質による血中ロイシン動態の調節. 第72回日本栄養・食糧学会大会 (岡山県立大学), 2018.
- d-05. 裴 準・川端二功・西村正太郎・田畑正志：TRPV1不活性化におけるエネルギー代謝亢進作用には $\beta$ -アドレナリン受容体が関与している. 第72回日本栄養・食糧学会大会 (岡山県立大学), 2018.
- d-06. Kawabata F., M. Higashida, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: T1r2-independent sweet taste pathways in chickens. The Association for Chemoreception Sciences 40th annual meeting (Hyatt Regency Coconut Point), 2018.
- d-07. Liang R., Y. Kawabata, F. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Acid induced activation and desensitization of TRPV1 in chickens and mice. The Association for Chemoreception Sciences 40th annual meeting (Hyatt Regency Coconut Point), 2018.
- d-08. Wang Z., N.E. Kramer, X. Cui, F. Kawabata, S. Tabata, W.K. Kim, HX. Liu: Abundant proliferating cells within chicken taste buds indicate a potentially "built-in" progenitor system for homeostasis. The Association for Chemoreception Sciences 40th annual meeting (Hyatt Regency Coconut Point), 2018.
- d-09. 川端二功：ニワトリ味覚受容体群の包括的理解とこれからの展望. (公社)日本畜産学会 第18回若手企画シンポジウムランチョンセミナー (一般財団法人旗影会協賛)「動物の味覚研究の最前線と畜産学への展開」(東京大学), 2018.
- d-10. 川端二功・大森 光・川端由子・西村正太郎・田畑正志：ニワトリにおけるカルシウム感知受容体CaSRを介したコク味物質の受容. 日本農芸化学会2018年度大会 (名城大学), 2018.
- d-11. 川端二功：私のこれまでの研究～食品会社での機能性食品の研究開発と大学での味覚研究～. 平成29年度中村学園大学食物栄養学科特別講演会 (中村学園大学), 2018.
- d-12. Kawabata F., R. Liang, J. Hai, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Differences of TRPV1 between chickens and mice in desensitization and energy expenditure regulation. The 16th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Kyushu University), 2017.
- d-13. Kawabata Y., F. Kawabata, S. Nishimura, N. Shigemura, S. Tabata: Oral lipase activities and the expressions of fat taste receptors in chickens. The 16th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Kyushu University), 2017.
- d-14. Araki M., F. Kawabata, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Behavioral analysis for sour taste stimuli and mRNA expressions of PKD2L1 in chickens. The 16th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Kyushu University), 2017.

- d-15. Omori H., Y. Kawabata, F. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Kokumi substances enhanced the extracellular calcium-sensing receptor (CaSR) response in chickens. The 16th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Kyushu University), 2017.
- d-16. Hayase Y., F. Kawabata, Y. Kawabata, S. Nishimura, S. Tabata: Salt taste sensitivities and the mRNA expressions of ENaC in chickens. The 16th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Kyushu University), 2017.

### 川崎 通夫

- a-01. Hossain, M.B., A. Sawada, K. Noda, M. Kawasaki: Hydathode function and changes in contents of elements in eddo exposed to zinc in hydroponic solution. *Plant Production Science*, 20: 423–433, 2017.
- a-02. Senda, M., M. Kawasaki, M. Hiraoka, K. Yamashita, H. Maeda, N. Yamaguchi: Occurrence and tolerance mechanisms of seed cracking under low temperatures in soybean. *Planta*, 248: 369–379, 2018.
- a-03. 川崎通夫・福土苑華：栽培用種子産地間における毛豆の生長と形質に関する比較. 日本作物学会東北支部会報, 60: 47–48, 2017.
- a-04. 遠藤 明・虻川雄介・川崎通夫・加藤千尋・佐々木長市：深暗渠排水設備が施工された青森県屏風山地域の大規模畑作圃場におけるナガイモ生育期間中の排水効果の検証. 農業農村工学会論文集 306: I 129– I 137, 2018.
- a-05. Thinh, N.C., E. Kumagai, H. Shimono, M. Kawasaki: Effects of elevated atmospheric CO<sub>2</sub> concentration on morphology of leaf blades in Chinese yam. *Plant Production Science*, 21: 311–321, 2018.
- d-01. Kawasaki, M., R. Ogura, S. Sasaki : Morphological characters related with morphogenesis of yam tubers having different shapes. 3rd East-Asia Microscopy Conference (Busan, South Korea), 2017.
- d-02. 石橋 諒・寺澤太志・佐々木里穂・川崎通夫・濱田茂樹：ペクチン分子が誘導するイネの根の伸長と病傷害応答. 第152回日本農芸化学会 東北支部会大会 (秋田県立大学), 2017.
- d-03. 千田峰生・川崎通夫・前多隼人・平岡未帆・山下一騎・萩原誠司・山口直矢：ダイズ低温裂開の発生機構およびその抵抗性機構について. 日本育種学会 第133回講演会 (九州大学), 2018.
- d-04. 川崎通夫：青森県つがる市屏風山地域の砂地畑における毛豆の栽培方法の検討. 第61回日本作物学会東北支部会 (山形大学), 2018.
- e-01. 川崎通夫：書評 見てわかる農学シリーズ3「作物学概論」第2版. 大門弘幸 編著 朝倉書店. 日本作物学会紀事 87: 271, 2018.
- f-01. 川崎通夫：電子顕微鏡を用いた作物学研究について. 第8回 植物電子顕微鏡若手ワークショップ (理化学研究所), 2017.

### 叶 旭君

- a-01. 木村 敬・廣瀬 孝・叶 旭君・園木知典・小田昭浩・張 樹槐：成形圧力の異なるバイオコークスの物理的・化学的变化に関する研究. 日本素材物性学会誌, 29 (1/2), 1–5, 2018.
- a-02. Ye, X., T. Izawa, S. Zhang: Rapid determination of lycopene content and fruit grading in tomatoes using a smart device camera. *Cogent Engineering*, 5(1), 1504499, 2018.
- d-01. 叶 旭君・阿部汐里・張 樹槐・芳村裕之：ライススキャンを用いたリンゴ樹の栄養状態評価のための簡易な葉色指数とカラーチャートの開発, 農業環境工学関連学会2018年合同大会 (CDROM, 愛媛大学), 2018.
- d-02. 張 樹槐・荒川 修・結城伸哉・大久保達矢・叶 旭君：機械学習による着色系リンゴの枝変わり品種判別法の開発, 農業環境工学関連学会2018年合同大会 (CDROM, 愛媛大学), 2018.
- d-03. 煙山智司・叶 旭君・吉川元起・張 樹槐：新規ニオイセンサーMSSを利用した魚肉の新鮮度推定, 農業食料工学会北海道・東北支部2018年次大会講演要旨 (宮城大学), 44~45, 2018.
- d-04. 叶 旭君・高橋留衣・芳村裕之・張 樹槐：りんご“こうこう”の熟度判定へのフルーツスキャンの応用, 農業食料工学会北海道・東北支部2018年次大会講演要旨 (宮城大学), 52~53, 2018.

### 田中 紀充

- a-01. Wada M., H. Oshino, N. Tanaka, N. Mimida, Y. Moriya-Tanaka, C. Honda, T. Hanada, H. Iwanami, S. Komori: Expression and functional analysis of apple MdMADS13 on flower and fruit formation. *Plant Biotechnology* 35: 207–213, 2018.
- d-01. 田中紀充・河野祐汰・山本幸助・松本省吾・小森貞男・荒川 修：種子の有無による植物成長調節剤がリンゴの

- 果実肥大に及ぼす影響. 園芸学会 (近畿大学). 園学研, 17 別 1: 69, 2018.
- d-02. 安松 浩・荒川 修・小林 勝・田中紀充: 光照射がサクラ 'ソメイヨシノ' 花卉の着色に及ぼす影響. 園芸学会 (近畿大学). 園学研, 17 別 1: 434, 2018.
- d-03. 田中紀充・鈴木真由・松田智哉・松本省吾・小森貞男・荒川 修: 開花前後の温度がリンゴの果形に及ぼす影響. 園芸学会東北支部会 (コラッセふくしま). 研究発表要旨: 11-12, 2018.
- d-04. 松田隆希・加藤 藍・田中紀充・渡邊 学・小森貞男: リンゴ種子の発育過程. 園芸学会 (鹿児島大学). 園学研, 17 別 2: 114, 2018.
- d-05. 小森貞男・斎藤柚花・佐々木真人・柳本麻衣・森田 泉・田中紀充・渡邊 学: リンゴ品種の果実変形パターン. 園芸学会 (鹿児島大学). 園学研, 17 別 2: 115, 2018.
- d-06. 荒川 修・安松 浩・田中紀充: 青色光がモモ果実のアントシアニン生成に及ぼす影響. 園芸学会 (鹿児島大学). 園学研, 17 別 2: 384, 2018.
- f-01. 田中紀充: リンゴを科学する「リンゴの種子形成と果実発達に関する研究および変形果実発生の研究」. 田中紀充. 2017.

## 【食農経済コース】

### 泉谷 眞実

- a-1. 小野 洋・松田裕子・泉谷眞実: 遠洋漁業の衰退と外国人労働力—カツオ一本釣り漁を対象に—. 食品経済研究, 45: 52-63, 2018.
- a-2. 泉谷眞実: 東北地域における労働力不足の現局面. 東北農業研究センター農業経営研究, 35: 1-26, 2018.
- a-3. Izumiya, M., M. Tamaru, A. Nonaka: Status and issues of exchange systems for dried food waste and vegetables in the recycling of household food waste. 弘大農学報, 20: 1-5, 2018.
- a-4. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛: 食品循環資源の飼料利用が地域企業に与える経済効果. 第10回廃棄物資源循環学会東北支部 第5回日本水環境学会東北支部 合同研究発表会予稿集, 38-39, 2018.
- b-1. 泉谷眞実・野中章久・金井源太・小野 洋: リサイクルバイオ燃料が切り開く新たなビジョン—使用済み食用油をエネルギーで活用する—. 弘前大学出版会, 2018.
- d-1. 高梨子文恵, 正木 卓, 泉谷眞実: 大規模水稻+園芸作地域における直売所の現段階と課題. 第54回東北農業経済学会・秋田大会 (秋田県立大学), 2018.
- d-2. 正木 卓・高梨子文恵・今野聖士・泉谷眞実: 東北津軽西北水稻単作地域における農地流動化の現局面. 第54回東北農業経済学会・秋田大会 (秋田県立大学), 2018.
- d-3. 正木 卓・房 家琛・泉谷眞実: 食品加工メーカーからの食品循環資源の発生とリサイクルチャンネル. 日本農業市場学会2018年度大会 (琉球大学), 2018.
- d-4. 高梨子文恵・成田拓未・泉谷眞実: 「食料流通」論についての若干の研究レビュー. 日本流通学会北海道・東北支部会2018年度第2回研究例会 (弘前大学), 2018.
- d-5. 小野 洋・松田裕子・泉谷眞実: 外国人労働力導入の実態と課題 —遠洋カツオ一本釣りのケース—. 2018年度日本農業経済学会大会 (北海道大学), 2018.
- d-6. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛: 食品循環資源の飼料利用が地域企業に与える経済効果. 第10回廃棄物資源循環学会東北支部 第5回日本水環境学会東北支部 合同研究発表会 (東北大学), 2018.
- f-1. 泉谷眞実: 労働力不足と農家雇用. りんごニュース, 3080: 2018.

### 石塚 哉史

- a-01. 高梨子文恵・石塚哉史・澤村圭祐: ベトナムにおける日本産牛肉流通チャンネル特徴. 弘前大学農学生命科学部学術報告 (No.20): 7-12, 2017.
- c-01. 真下俊樹・後藤 忍・並河信太郎・石塚哉史・前川慎太郎・山内ゆかり・押部逸哉・齋藤和宏・豊泉由美子・合崎眞理: 子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育. 日本教職員組合編: 日本の教育—第67集— (アドバンテージサーバー): 239-254, 2018.
- d-01. 中村哲也・丸山敦史・矢野佑樹・石塚哉史: ロシアにおける輸入農産物の国際認証と信頼性に関する分析—日本産輸出を考慮して—. 日本国際地域開発学会春季大会 (名古屋大学), 2018.
- d-02. Yano, Y., T. Nakamura, S. Ishitsuka, A. Maruyama: Consumer perceptions and overall rating for leafy vegetables grown under artificial lighting in Russia. The Japanese society of regional and agricultural development (Nagoya

University), 2018.

- d-03. Thinh, H.S., F. Takanashi, S. Ishitsuka: The Challenges for geographical indications to function as a differentiation tool for marketing of agricultural products in Vietnam. The Agricultural Marketing Society of Japan (University of the Ryukyus), 2018.
- d-04. 成田拓未・石塚哉史：転換期の加工専門農協。第38回日本協同組合学会大会地域ンポジウム(弘前大学), 2018.
- e-01. 石塚哉史:食の問題. 日本教職員組合編:2016年度母と女性教職員の会全国集会報告集(アドバンテージサーバー): 60-63, 2018.
- f-01. 石塚哉史：最近の農産物輸出における傾向と課題. アグロ・イノベーション2017(東京国際展示場): 2017.
- f-02. 石塚哉史：農産物輸出の今日的展開と課題. 技術と普及(2017年12月号): 21-23, 2017.
- f-03. 石塚哉史：地域農業を考える—国際化が進展する中での青森の食と農—. つがる市・弘前大学公開講座(つがる市生涯学習交流センター松の館), 2018.
- f-04. 石塚哉史:グローバル時代の製品・販売の事業戦略—海外市場に挑戦する日本産農林水産物・食品から学ぶ—. (八戸商工会館), 2018.
- f-05. 石塚哉史:トマト加工品輸出の展開—沼田町農産加工場「北のほたるファクトリー」を事例に—. 野菜情報(2018年4月号): 49-57, 2018.
- f-06. 石塚哉史・正木 卓・成田拓未:平川市まちづくり推進事業について. 国立大学法人弘前大学と平川市との平成28年度連携調査研究事業成果報告会(東京會館), 2018.
- f-07. 石塚哉史:書評 福田晋編著『農畜産物輸出拡大の可能性を探る—戦略的マーケティングと物流システム—』. 農業経済研究(90-1): 83-85, 2018.

### 佐藤 加寿子

- a-01. 佐藤加寿子:第一部第4章米国の家族経営の変貌—酪農経営を中心に—.『家族農業経営の変容と展望』農林統計協会, 73-91, 2018.
- a-02. 鵜川洋樹・佐藤加寿子・林 美俊:ソバ生産による中山間地域農業の展開と秋田県産坂米の県外需要—北海道における先進的事例の実態分析—. 秋田県立大学ウェブジャーナルB(研究成果部門), 5: 230-239, 2018.
- c-01. 佐藤加寿子:(翻訳)第二部まえがき. コノー・J・フィッツモーリス, ブライアン・J・ガロー著, 村田武, レイモンド・A・ジュソーム・Jr.監訳『現代アメリカの有機農業とその将来』筑波書房, 86-99, 2018.
- c-02. 佐藤加寿子:(翻訳)第4章フダグソウの真ん中で ニューイングランドの景観の多様性と有機農場の実際. コノー・J・フィッツモーリス, ブライアン・J・ガロー著, 村田武, レイモンド・A・ジュソーム・Jr.監訳『現代アメリカの有機農業とその将来』筑波書房, 100-129, 2018.
- d-01. 椿 真一・佐藤加寿子:水田土地利用型農業の担い手の将来像—秋田県の集落営農組織を中心に—. 東北農業経済学会秋田大会(秋田市), 2018.
- d-02. 椿 真一・村田 武・佐藤加寿子:アメリカの非営利組織によるオルタナティブ・フードシステムへの取組—マサチューセッツ州の事例—. 東北農業経済学会秋田大会, 2018.

### 佐藤 孝宏

- a-01. Sato T.: Livelihood transformability in the villages with poor water resources in India -The case of Tamil Nadu-. In Minoru M., K. Fujita, K. Tomozawa, T. Awaya (eds.) Structural transformation in globalizing south Asia: Comprehensive area studies for sustainable, Inclusive, and Peaceful Development. Senri Ethnological Studies 96: 47-61, 2017.
- a-02. Kono Y., T. Sato, K. Watanabe, S. Tomita, L. Zhang: Reconsidering development mechanisms of tropical agriculture: Focusing on micro-development in mainland southeast Asia. In Lopez M.I., J. Suryomengglo (eds.) Environmental resources use and challenges in contemporary southeast Asia: Tropical ecosystems in transition. Springer Nature Singapore, 21-39, 2018.
- a-03. Stuart S.M., K.P. Devkota, T. Sato, A.R.P. Pame, C. Balingbing, N.T.M. Phung, N.T. Kieu, P.T.M. Hieu, T.H. Long, S. Beebout, G.R. Singleton: On-farm assessment of different rice crop management practices in the Mekong Delta, Vietnam, using sustainability performance indicator. Field Crops Research 229: 103-114, 2018.
- d-02. Sato T., A.K. Gaiballa, S.A. Abdelgader., Economic use of *Prosopis juliflora* in south India and east Sudan. Desert Technology XIII / International Conference on Arid Land III, Pondicherry, India, 2018.
- f-01. Sato T.: Livelihood transformability in the villages with poor water resources in India -The case of Tamil Nadu-,

Special Lecture at Red Sea University, Port Sudan, Sudan, 2017.

- f-02. 佐藤孝宏：水集約的農業の展開—タミルナードゥ州マドゥラ県の100年，人間文化研究機構 南アジア地域研究 京都大学中心拠点 研究グループ1-B「南アジアの開放経済」2017年度第3回研究会，(京都大学)，2017.

### 高梨子 文恵

- a-01. 高梨子文恵・石塚哉史・澤村圭祐：ベトナムにおける日本産牛肉流通チャネルの特徴，弘前大学農学生命科学部 学術報告，20: 7-12, 2018.
- a-02. Sakata S., F. Takanashi: Vietnam's lychee and dragon fruit exports to China: Studies of the production and value Chain, Kubo K., S. Sakata edu., Impact of China's increasing demand for agro produce on agricultural production in the mekong region, BRC Research Report Bangkok Research Center, JETRO Bangkok/IDE-JETRO, 1-24, 2018.
- c-01. 高梨子文恵：5章後半～6章（翻訳），コノー・J・フィッツモーリス他著，現代アメリカの有機農業とその将来，村田武，レイモンド・A・ジュソーム Jr. 監訳，筑波書房，2018
- d-01. 高梨子文恵・成田拓未・泉谷眞実：「食料流通」論についての若干の研究レビュー．日本流通学会北海道東北支部大会 第2回研究定例会（弘前大学），2018.
- d-02. Hoang, T.S., F. Takanashi, S. Ishizuka: The challenges for geographical indications to function as a differentiation tool for agricultural products in Vietnam, the Agricultural Marketing Society of Japan Conference (University of Ryukyus), 2018.
- d-03. 高梨子文恵・平山有紀：移外型産地における新規作物の導入と地産地消型流通の構築—青森市を事例に一，日本農業市場学会（琉球大学），2018.
- d-04. 高梨子文恵・正木 卓・泉谷眞実：大規模水稻+園芸作地域における直売所出荷農家の現段階と課題—青森県つがる市を事例に一，東北農業経済学会（秋田県立大学），2018.
- d-05. 正木 卓・高梨子文恵・今野聖士・泉谷眞実：東北津軽西北水稻単作地域における農地流動化の現局面，東北農業経済学会（秋田県立大学），2018.
- d-06. 高梨子文恵：農業協同組合の存在意義—制度としての農協を超えて 第3報告へのコメント，第38回日本協同組合学会（弘前大学），2018.
- e-01. 成田拓未・石塚哉史・高梨子文恵・外川裕太：加工専門農業協同組合の現状と課題，平成28年度JA研究奨励助成報告書，2017.
- e-02. 高梨子文恵：青森県の若手女性農業者の現状とネットワーク化に向けた課題，平成29年度農業経営研究等支援事業報告書，2018.
- f-01. 高梨子文恵：「アンケート分析実践講座」女性マーケター育成プログラム講師（青森市），2018.

### 成田 拓未

- a-01. 成田拓未：わが国りんご輸出における鮮度保持問題と輸出主体の対応，農業市場研究，26（4）：72-78, 2018.
- d-01. 高梨子文恵・成田拓未・泉谷眞実：「食料流通」論についての若干の研究レビュー．日本流通学会北海道東北支部大会 第2回研究定例会（弘前大学），2018.
- d-02. 成田拓未・石塚哉史：基調報告・転換期の加工専門農協．日本協同組合学会第38回大会地域シンポジウム（弘前大学），2018.
- f-01. 青木美紗・大高研道・久保ゆりえ・小山良太・成田拓未・走井洋一：「協同組合研究の未来を紡ぐ」座談会・本編（前半）．協同組合研究，37（1）：43-55, 2017.
- f-02. 青木美紗・大高研道・久保ゆりえ・小山良太・成田拓未・走井洋一：「協同組合研究の未来を紡ぐ」座談会・本編（後半）．協同組合研究，37（2）：42-59, 2017.
- f-03. 成田拓未：座長解題：農協改革．農業と経済，83（10）：86-96, 2017.
- f-04. 成田拓未：マーケティングを学ぶ．農業と経済，84（2）：86-87, 2018.
- f-05. 成田拓未：青森りんごの海外市場と輸出戦略．農業と経済，84（5）：90-94, 2018.
- f-06. 成田拓未：書評 立川雅司著『遺伝子組換え作物をめぐる「共存」：EUにおける政策と言説』．共生社会システム研究，12（1）：216-220, 2018.

### 正木 卓

- a-01. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛：養豚経営における飼料部門の内部化と経済的効果に関する実態分析—青森県木

村牧場を事例として一. フロンティア農業経済研究, 第21巻第1号: 106-113, 2018.

- a-02. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛: 食品循環資源の飼料利用が地域企業に与える経済効果. 第10回廃棄物資源循環学会東北支部 第5回日本環境学会東北支部 合同研究発表予稿集, 38-39, 2018.
- d-01. 申 錬鐵・正木 卓・国本英樹: 北海道における農協の個選共販による野菜流通構造—七飯町野菜生産出荷組合を事例に一. 2018年度日本農業経済学会大会(北海道大学), 2018.
- d-02. 正木 卓・房 家琛・泉谷眞実: 食品加工メーカーからの食品循環資源の発生とリサイクルチャネル. 2018年度日本農業市場学会大会(琉球大学), 2018.
- d-03. 正木 卓・高梨子文恵・今野聖士・泉谷眞実: 東北津軽西北水稲単作地域における農地流動化の現局面. 第54回東北農業経済学会(秋田県立大学), 2018.
- d-03. 高梨子文恵・正木 卓・泉谷眞実: 大規模水稲+園芸作地域における直売所の現段階と課題. 第54回東北農業経済学会(秋田県立大学), 2018.
- e-01. 正木 卓: 書評 田代洋一著『農協「改革」・ポストTPP・地域』. 農業・農協問題研究64: 34-36, 2017.

## 吉仲 怜

- c-01. 渋谷長生・吉田 渉・吉仲 怜・丸山晃矢: 陸奥湾におけるナマコ資源管理の現状と課題. 弘前大学農学生命科学部学術報告 第20号: 13-33, 2018.
- c-02. 渋谷長生・吉田 渉・吉仲 怜: 日本産ナマコ輸出に伴う諸問題と今後の方向. 弘前大学農学生命科学部学術報告 第20号: 35-49, 2018.
- d-01. 小沼 新・吉仲 怜: 干し芋産地における衛生管理水準の向上と生産農家の対応に関する研究. 第54回東北農業経済学会秋田大会個別報告(秋田県立大学), 2018.
- e-01. 吉仲 怜: 平成29年度産地と実需者をつなぐ「高品位加工りんご」推進事業における加工専用展示の経営調査報告書(青森県), 2018.
- f-01. 吉仲 怜: クッキングアップルを中心とした栽培加工研究について. 国立大学法人弘前大学と板柳町との平成29年度連携調査研究事業成果報告会(板柳ふるさとセンター), 2018.
- f-02. 吉仲 怜・加藤陽治: 「食ラボひらかわ」の利活用事業について. 国立大学法人弘前大学と平川市との平成29年度連携調査研究事業成果報告会(東京會館), 2018.

## 【地域環境工学科】

## 泉 完

- a-01. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤・杉本亜里紗：魚設計のための産卵遡上期におけるワカサギの遊泳能力の測定，土木学会論文集G（環境）Vol.73, No.6, II\_63-II\_68, 2017.
- a-02. 泉 完・東 信行・丸居 篤・矢田谷健一：河川遡上期におけるシロウオの突進速度に関する実験，土木学会論文集G（環境）Vol.73, No.7, III\_269-III\_274, 2017.
- a-03. 泉 完・清水秀成・東 信行・丸居 篤・矢田谷健一：ミナミメダカの突進速度に関する実験，農業農村工学会論文集，No. 306 (86-1), pp. II\_1-II\_7, 2018.

## 佐々木 長市

- a-01. 遠藤 明・川崎通夫・渋谷恵美子・加藤千尋・佐々木長市：青森県屏風山砂丘畑におけるナガイモ生育期間中の多灌水処理が土壌中における物質の溶脱・集積に及ぼす影響，農業農村工学会論文集：307: I\_243-I\_253, 2018.
- a-02. 遠藤 明・虻川雄介・川崎通夫・加藤千尋・佐々木長市：深暗渠排水設備が施工された青森県屏風山地域の大規模畑作圃場におけるナガイモ生育期間中の排水効果の検証，農業農村工学会論文集：306: I\_129-I\_137, 2018.
- a-03. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市：積雪および融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における無機態窒素の浸透流出特性，農業農村工学会論文集：305: I\_221-I\_231, 2017.
- a-04. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield, International Journal of Environmental and Rural Development, 8(1): 77-84, 2018.
- a-05. Matsuyama, N., H. Fujisawa, C. Kato, C. Sasaki, M. Saigusa: Contrasting Soil Properties of Allophanic and Non-allophanic Horizons of Volcanic Ash Soil in Tohoku District, Japan, Journal of Agriculture and Environmental Science, (印刷中)
- d-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市：積雪と融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における硝酸態窒素の溶脱特性，2018年度農業農村工学会大会講演会（京都），4-21（P），2018.
- d-02. 樋川佳士・佐々木長市・范 津瑋・松山信彦・加藤千尋・遠藤 明：客土水田の浸透型が稲体の銅吸収に及ぼす影響，2018年度農業農村工学会大会講演会（京都），4-23（P），2018.
- d-03. 加藤千尋・遠藤 明・加藤 幸・佐々木長市：リンゴ園土壌に施用したホタテ貝殻中カルシウムの挙動，2018年度農業農村工学会大会講演会（京都），4-22（P），2018.
- d-04. 加藤千尋・佐々木長市・遠藤 明・松山信彦：排水性の異なる水田転換ダイズ畑における土壌水分変動予測，2017年度土壤物理学大会（札幌），2017.
- d-05. Fan, J., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, S. Li, , K. Sasaki: Influence of percolation patterns on copper uptake, and growth and yield with copper-polluted stratified paddy fields, 9th International Conference of Environmental and Rural Development (Yezin, Myanmar), 2018.

## 檜垣 大助

- a-01 金 俊之・檜垣大助：市町村へのアンケート結果からみた防災部局の土砂災害警戒避難体制の実態と課題について．砂防学会誌，70（4）：18-25.
- a-02 Torimaru, T., S. Akada, K. Ishida, M. Narita, and D. Higaki: Species habitat associates in an old-growth beech forest community organized by landslide disturbances. Journal of Forest Research, 23-1, 98-104, 2018.
- a-03. Tsou, C.Y., M. Chigira, D. Higaki, G. Sato, H. Yagi, H.P. Sato, A. Wakai, V. Dangol, S.C. Amatya, A. Yatagai: Topographic and geologic controls on landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake and its aftershocks: an example from the Trishuli Valley, central Nepal. Landslides, 15(5): 953-965, 2018.
- a-04. Tsou, C.Y., D. Higaki, M. Chigira, H. Yagi, V. Dangol, S.C. Amatya, K. Hayashi, H. Kato: Topographic characteristics of landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake, Nepal. Journal of Nepal Geological Society, 55 (Sp. Issue): 69-75, 2018.
- a-05. Yagi, H., K. Hayashi, D. Higaki, C.Y. Tsou, G. Sato: Dormant landslides distributed in upper course of Sun Kosi Watershed and landslides induced by Nepal Gorkha Earthquake 2015. Journal of Nepal Geological Society, 55 (Sp. Issue): 61-67, 2018.
- b-01 檜垣大助・千葉則行：2011年東北地方太平洋沖地震による松島湾周辺地域での斜面崩壊発生場の地形・地質条件，

東北地理学会編「東日本大震災と地理学」, 37-42, 2018.

- d-01 Higaki, D., N. Koiwa, M. Takahashi, S.K. Ghimire, T. Bhattarai, and K.K. Karki: Stabilization measures of stream planform in the Siwalik Hills of Nepal-evaluation results of a pilot project., The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017.
- d-02 Tsou, C.Y., D. Higaki, M. Chigira, H. Yagi, V. Dangol, S.C. Amatya, K. Hayashi, H. Kato: Topographic characteristics of landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake, Nepal. The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017.
- d-03 Yagi, H., K. Hayashi, D. Higaki, C.Y. Tsou, G. Sato: Dormant landslides distributed in upper course of Sun Kosi Watershed and landslides induced by Nepal Gorkha Earthquake 2015. The 11th Asian Regional Conference of IAEG., 2017.
- d-04 Tsou, C.Y., D. Higaki, K. Yamabe: New information obtained from the historical Juniko landslide, one of the largest landslides in Japan. 第57回日本地すべり学会研究発表会, 2018.
- d-05 Higaki, D.: Low-cost measures for surface erosion and river course control in degraded catchments, One Day Seminar on "Sediment Disasters and Their Mitigation in Nepal", DWIDM and NFAD, 2018.
- d-06 Tsou, C.Y., T. Higuchi, D. Higaki: Deciphering recent landslide dynamics in the Shirakami Mountains, a World Natural Heritage site, Japan. Japan Geoscience Union, 2018.
- d-07 檜垣大助・松田有由・鄒 青穎: 白神山地における樹木の傾きと微地形を用いた地すべり活動性の把握. 第57回日本地すべり学会研究発表会, 2018.
- d-08 檜垣大助・加藤京樹・鄒 青穎: 2015年ゴルカ地震による斜面崩壊の発生場条件—ネパールゴルカ地域. 平成29年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2018.
- d-09 檜垣大助・加藤京樹・鄒 青穎・林 一成・八木浩司・千木良雅弘: ネパールゴルカ地震による斜面崩壊発生場の地形・地質特性. 第67回砂防学会研究発表会, 2018.
- d-10 鄒 青穎・田口一汰・檜垣大助・五十嵐光: 歴史地震地すべりの地学・防災教育への活用—津軽十二湖地すべりを例に. 岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム, 2018.
- d-10 檜垣大助: 衛星画像・高精度地形情報を用いたランドスライド発生危険地域評価の検討, 日本学術会議防災学術連携体主催第2回防災推進国民大会 日本学術会議公開シンポジウム, 2017.
- d-11 檜垣大助・萩田 茂・相楽 渉・日本地すべり学会大規模地すべり機構検討委員会: 日本の大規模地すべり—イベントリーから見た形態と機構, 岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム, 2018.
- f-01 森 俊勇・大井英臣・藤田正治・檜垣大助: ネパールでの土砂災害対策—今後の対応についてのネ・日合同セミナー報告, 砂防と治水, 51-3, 58-60, 2018.

## 藤崎 浩幸

- a-01. 藤崎浩幸: 農業農村の六次産業化. 森林環境2018: 46-54, 2018.

## 遠藤 明

- a-01. Endo, A., K. Kato, B.C. Sarker: Leaching characteristics of nitrate nitrogen in an apple orchard andosol under significant snow accumulation, Geoderma: 319, 24-33, 2018.
- a-02. 遠藤 明・川崎通夫・渋谷恵美子・加藤千尋・佐々木長市: 青森県屏風山砂丘畑におけるナガイモ生育期間中の多灌水処理が土壤中における物質の溶脱・集積に及ぼす影響, 農業農村工学会論文集: 307, I\_243-I\_253, 2018.
- a-03. 加藤 幸・加藤千尋・武藤由子・遠藤 明・千葉克己・溝口 勝: 積算寒冷地のリンゴ園地における冬期地温の特色, 農業農村工学会論文集: 印刷中
- a-04. 遠藤 明・虻川雄介・川崎通夫・加藤千尋・佐々木長市: 深暗渠排水設備が施工された青森県屏風山地域の大規模畑作圃場におけるナガイモ生育期間中の排水効果の検証, 農業農村工学会論文集: 306, I\_129-I\_137, 2018.
- a-05. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市: 積雪および融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における無機態窒素の浸透流出特性, 農業農村工学会論文集: 305, I\_221-I\_231, 2017.
- d-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市: 積雪と融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における硝酸態窒素の溶脱特性, 2018年度農業農村工学会大会講演会(京都), 4-21 (P), 2018.
- d-02. 加藤千尋・遠藤 明・加藤 幸・佐々木長市: リンゴ園土壌に施用したホタテ貝殻成分の挙動, 2018年度農業農村工学会大会講演会(京都), 4-22 (P), 2018.
- d-03. 樋川佳士・佐々木長市・范 津瑋・松山信彦・加藤千尋・遠藤 明: 客土水田の浸透型が稲体の銅吸収に及ぼす影響, 2018年度農業農村工学会大会講演会(京都), 4-23 (P), 2018.

- d-04. Fan, J., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, S. Li, K. Sasaki: Influence of percolation patterns on copper uptake, and growth and yield with copper-polluted stratified paddy fields, 9th International Conference on Environmental and Rural Development (Yezin, Myanmar), 2018.
- d-05. 加藤千尋・佐々木長市・遠藤 明・松山信彦：排水性の異なる水田転換ダイズ畑における土壌水分変動予測, 2017年度土壌物理学大会(札幌), 2017.
- e-01. 遠藤 明：ナガイモの品質向上に向けた青森県西北地域における砂質土畑地の土壌理化学性の改良, 平成29年度 弘前大学若手・新任研究者支援事業研究成果集, 2018.

### 加藤 幸

- a-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市：積雪および融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における無機態窒素の浸透流出特性, 農業農村工学会論文集, 305: I\_221-I\_231, 2017.
- a-02. Endo A., K. Kato and B. C. Sarker: Leaching characteristics of nitrate nitrogen in an apple orchard Andosol under significant snow accumulation, Geoderma, 319: pp.24-33, 2018.
- d-01. 加藤 幸, 千葉克己：水田転作ブドウ園における地下水位の年変化と排水対策, 農業農村工学会東北支部第59回研究発表会要旨集, pp.6-7, 2017.
- d-02. 千葉克己, 郷古雅春, 富樫千之, 加藤 幸, 宮内敏郎：復旧後の津波被災農地における地下水の塩水化の動態, 農業農村工学会東北支部第59回研究発表会要旨集, pp.8-9, 2017.
- d-03. 加藤 幸, 加藤千尋, 千葉克己：北限の栽培セリ「一町田セリ」の生育環境と栽培方法, 平成30年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.808-809, 2018.
- d-04. 千葉克己, 加藤 幸, 郷古雅春, 富樫千之, 宮内敏郎：復旧後の津波被災農地における地下水の動態, 平成30年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.620-621, 2018.
- d-05. 加藤千尋, 遠藤 明, 加藤 幸, 佐々木長市：リンゴ園土壌に施用したホタテ貝殻成分の挙動, 平成30年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.372-373-809, 2018.
- d-06. 遠藤 明, 伊藤大雄, 加藤 幸, 加藤千尋, 佐々木長市：積雪と融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における硝酸態窒素の溶脱特性, 平成30年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.370-371-809, 2018.

### 丸居 篤

- a-01. 泉 完・東 信行・丸居 篤・矢田谷健一：河川遡上期におけるシロウオの突進速度に関する実験. 土木学会論文集G(環境), Vol.73, No.7, III\_269-III\_274, 2017.
- a-02. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：魚道設計のための産卵遡上期におけるワカサギの遊泳能力の測定. 土木学会論文集G(環境), Vol.73, No.6, II\_63-II\_68, 2017.
- a-03. 泉 完・東 信行・丸居 篤・矢田谷健一：ミナミメダカの突進速度に関する実験. 農業農村工学会論文集, 86巻1号: 1-7, 2018.

### 森 洋

- a-01. 森 洋：水平互層供試体の構成層数とせん断強度特性について. 農業農村工学会論文集, No. 306(86-1), pp. II\_27-II\_3, 2018.
- d-01. 森 洋・朝倉紀樹：青森県内にある溜池堤体の分布特性について. 第59回農業農村工学会東北支部研究発表会, 26-27, 2017.
- d-02. 森 洋・朝倉紀樹：青森県内にある溜池分布特性と堤体材料について. 第53回地盤工学研究発表会, 239-240, 2018.
- d-03. 森 洋・朝倉紀樹：溜池堤体の地盤強度特性と材料物性値について. 平成30年度農業農村工学会大会講演会, 264-265, 2018.

### 加藤 千尋

- a-01. 遠藤 明・川崎通夫・渋谷恵美子・加藤千尋・佐々木長市：青森県屏風山砂丘畑におけるナガイモ生育期間中の多灌水処理が土壌中における物質の溶脱・集積に及ぼす影響, 農業農村工学会論文集: 307: I\_243-I\_253, 2018.
- a-02. 遠藤 明・虻川雄介・川崎通夫・加藤千尋・佐々木長市：深暗渠排水設備が施工された青森県屏風山地域の大規模畑作圃場におけるナガイモ生育期間中の排水効果の検証, 農業農村工学会論文集: 306: I\_129-I\_137, 2018.
- a-03. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市：積雪および融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園にお

る無機態窒素の浸透流出特性, 農業農村工学会論文集: 305: I\_221-I\_231, 2017.

- a-04. 西脇淳子・徳本家康・坂井 勝・加藤千尋・廣住豊一・渡辺晋生・塩澤仁行・溝口 勝: 復興農学事業における福島県飯館村での稲刈り体験・現場見学, 農業農村工学会誌 (水土の知), 86(1): 31-34, 2018.
- a-05. Kojima, Y., J.L. Heieman, M. Sakai, C. Kato, R. Horton: Bulk density effects on soil hydrologic and thermal characteristics: A numerical investigation. *Hydrological Processes*, 32: 2203-2216, 2018.
- a-06. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield, *International Journal of Environmental and Rural Development*, 8(1): 77-84, 2018.
- a-07. Matsuyama, N., H. Fujisawa, C. Kato, C. Sasaki, M. Saigusa: Contrasting Soil Properties of Allophanic and Non-allophanic Horizons of Volcanic Ash Soil in Tohoku District, Japan, *Journal of Agriculture and Environmental Science*, (印刷中).
- d-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市: 積雪と融雪を勘案した灰色低地土リンゴ園における硝酸態窒素の溶脱特性, 2018年度農業農村工学会大会講演会 (京都), 4-21 (P), 2018.
- d-02. 樋川佳士・佐々木長市・范 津瑋・松山信彦・加藤千尋・遠藤 明: 客土水田の浸透型が稲体の銅吸収に及ぼす影響, 2018年度農業農村工学会会講演会 (京都), 4-23 (P), 2018.
- d-03. 加藤千尋・遠藤 明・加藤 幸・佐々木長市: リンゴ園土壤に施用したホタテ貝殻中カルシウムの挙動, 2018年度農業農村工学会会講演会 (京都), 4-22 (P), 2018.
- d-04. 加藤千尋・佐々木長市・遠藤 明・松山信彦: 排水性の異なる水田転換ダイズ畑における土壤水分変動予測, 2017年度土壌物理学大会 (札幌), 2017.
- d-05. Fan, J., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, S. Li, K. Sasaki: Influence of percolation patterns on copper uptake, and growth and yield with copper-polluted stratified paddy fields, 9th International Conference of Environmental and Rural Development (Yezin, Myanmar), 2018.

## 鄒 青穎

- a-01. Tsou, C.Y., M. Chigira, D. Higaki, G. Sato, H. Yagi, H.P. Sato, A. Wakai, V. Dangol, S.C. Amatya, A. Yatagai: Topographic and geologic controls on landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake and its aftershocks: an example from the Trishuli Valley, central Nepal. *Landslides*, 15(5): 953-965, 2018.
- a-02. Tsou, C.Y., D. Higaki, M. Chigira, H. Yagi, V. Dangol, S.C. Amatya, K. Hayashi, H. Kato: Topographic characteristics of landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake, Nepal. *Journal of Nepal Geological Society*, 55(Sp. Issue), 69-75, 2018.
- a-03. Yagi, H., K. Hayashi, D. Higaki, C.Y. Tsou, G. Sato: Dormant landslides distributed in upper course of Sun Kosi Watershed and landslides induced by Nepal Gorkha Earthquake 2015. *Journal of Nepal Geological Society*, 55 (Sp. Issue), 61-67, 2018.
- a-04. Tsou, C.Y., M. Chigira, H.H. Lin, W.K. Huang: Flexural toppling as a causal factor of the rain-induced slope failure in 2016, Hsinchu Prefecture, Taiwan. *Journal of the Japan Landslide Society*, 55(5): 39-45, 2018.
- d-01. Tsou C.-Y.: The distribution and characteristics of deep-seated gravitational slope deformation in active fluvial landscapes. *International Conference on Disaster Prevention and Mitigation Technology for Large-Scale Landslide*, 2017.
- d-02. Tsou C.-Y., M. Chigira, Y. Matsushi, N. Hiraishi, N. Arai: Coupling fluvial processes and landslide distribution toward geomorphological hazard assessment: a case study in a transient landscape in Japan. *The 4th Slope Tectonics*, 2017.
- d-03. Jaboyedoff M., M. Chigira, N. Arai, M.-H. Derron, T. Oppikofer, I. Penna, B. Rudaz, C.-Y. Tsou: 3D failure surface and volume estimation of large rock slope instabilities: a review of a bottleneck problem. *The 4th Slope Tectonics*, 2017.
- d-04. Tsou, C.Y., D. Higaki, M. Chigira, H. Yagi, V. Dangol, S.C. Amatya, K. Hayashi, H. Kato: Topographic characteristics of landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake, Nepal. *The 11th Asian Regional Conference of IAEG*, 2017.
- d-05. Yagi, H., K. Hayashi, D. Higaki, C.Y. Tsou, G. Sato: Dormant landslides distributed in upper course of Sun Kosi Watershed and landslides induced by Nepal Gorkha Earthquake 2015. *The 11th Asian Regional Conference of IAEG*, 2017.
- d-06. Tsou, C.Y., D. Higaki, K. Yamabe: New information obtained from the historical Juniko landslide, one of the

largest landslides in Japan. 第57回日本地すべり学会研究発表会, 2018.

- d-07. 檜垣大助・松田有由・鄒 青穎：白神山地における樹木の傾きと微地形を用いた地すべり活動性の把握. 第57回日本地すべり学会研究発表会, 2018.
- d-08. 鄒 青穎・田口一汰・檜垣大助・五十嵐光：歴史地震地すべりの地学・防災教育への活用—津軽十二湖地すべりを例に. 岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム, 2018.
- d-09. 檜垣大助・加藤京樹・鄒 青穎・林 一成・八木浩司・千木良雅弘：ネパールゴルカ地震による斜面崩壊発生場の地形・地質特性. 第67回平成30年度砂防学会研究発表会, 2018.
- d-10. Tsou, C.Y., T. Higuchi, D. Higaki: Deciphering recent landslide dynamics in the Shirakami Mountains, a World Natural Heritage site, Japan. Japan Geoscience Union, 2018.
- d-11. 檜垣大助・加藤京樹・鄒 青穎：2015年ゴルカ地震による斜面崩壊の発生場条件—ネパールゴルカ地域. 平成29年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2018.
- e-01. 鄒 青穎：地形・地質的な視点に基づく火山周辺地域における地震時崩壊危険斜面予測手法の検討. 平成29年度弘前大学若手・新任研究者支援事業研究成果集, 2018.

### 森谷 慈宙

- a-01. Moritani S., H. Nanjo, A. Itou: Partial cooling of strawberry plants by water tube utilizing geo-thermal heat pump. *Journal of Applied Horticulture*, 19(3): 186–190, 2017.
- d-01. 森谷慈宙・澤田祐亜・金藤正直：ビニールハウス内における野菜育成の環境自動制御, H30年砂丘学会全国大会要旨集, (つくば市), 2018.
- d-02. 森谷慈宙・鈴木雄大・伊高健治：栽培施設におけるLED照明の配置設計, H30年砂丘学会全国大会要旨集, (京都大学), 2018.
- d-03. I. Kenji, S. Moritani: Development of the Sunlight Simulation Program for Solar Sharing with Agriculture, Grand Renewable Energy 2018 International Conference, (Yokohama), 2018.

## 【生物共生教育研究センター】

## 伊藤 大雄

- a-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤 幸・加藤千尋・佐々木長市：積雪および融雪を考慮した灰色低地土リンゴ園における無機態窒素の浸透流出特性. 農業農村工学会論文集, 85: I-221 – I-231, 2017.
- a-02. 伊藤大雄：平棚で栽培したマルバカイドウ台リンゴ樹における果実収量と果実品質の経年変化. 園芸学研究, 17: 191-197, 2018.
- d-01. 伊藤大雄：特別栽培したリンゴ園における3年間の病害虫発生状況. 北日本病害虫研究会（八戸市）, 2018.
- d-02. 日下部玄・石田祐宣・伊藤大雄・石田 清：択伐後放棄されたブナ林における下層群集の空間変異と動態. 日本森林学会（高知市）, 2018.
- d-03. Ito, D. and S. Ishida: Photosynthetic characteristics of no-fruit-bearing apple tree under restricted solar radiation. International Symposium on Agricultural Meteorology 2018 (ISAM2018, at Kyusyu University), 2018.
- d-04. 滝野 祐・石田祐宣・伊藤大雄・戎 信宏・佐藤嘉展・ほか6名：白神山地ブナ林における蒸発散量の経年変化. 水文・水資源学会（三重大学）, 2018.
- d-05. 伊藤大雄：広域に適用できるリンゴ‘ふじ’の発芽・開花予測モデルの開発. 日本農業気象学会東北支部平成30年度大会（東北大学）, 2018.
- f-01. 伊藤大雄：青森の農業は気候変動にどう向き合うか. 青森地方気象台2017気候講演会（青森市）, 2017.
- f-02. 伊藤大雄：地球温暖化と青森県のリンゴ産業. ひろさき農商工観学金連携協議会（弘前市役所）, 2018.

## 林田 大志

- a-01. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希・五十嵐恵・初山慶道・林田大志・塩崎雄之輔：リンゴ新品種‘HFF63’/きみと™の育成過程とその特性. 園芸学研究, 17(1): 115-122, 2018.
- a-02. 野田聡子・林田大志・島田 透・千葉直子・大水達也・加藤陽治：青森県産黒房すぐりと赤房すぐりの葉の炭水化物の比較研究. 教育学部紀要, 120: 85-91, 2018.
- d-01. 林田大志・藤田知道・佐藤早希・大上将司・服部雄飛・岩渕久克・松本和浩：新規フレーバーホイールによるリンゴ果実の香気特性評価の可能性. 園芸学会（近畿大学）, 2018.

## 姜 東鎮

- a-01. Kang, D.J., H. Tazoe, Y. Ishii, K. Isobe, M. Higo, M. Yamada: Effect of fertilizer with low levels of potassium on radiocesium-137 decontamination. J. Crop Sci. Biotech., 21: 113-119, 2018.
- d-01. 姜 東鎮・田副博文・石井康之・床次眞司・山田正俊：福島県浪江町警戒区域内におけるネピアグラスによる放射性セシウム除染. 第4報 放射性セシウム除染における耕うんまたはキレート剤処理の効果. 日本作物学会第246回講演会（北海道大学）, 2018.
- d-02. 梅木直哉・姜 東鎮・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕をイネWCSに混合して調製したサイレージの化学組成, 発酵品質及び嗜好性に関する研究. 日本草地学会熊本大会（くまもと県民交流館パレア）, 2018.
- f-01. 姜 東鎮：イネの栽培管理（延べ三日間）. 生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師, 2018.

## 房 家琛

- a-01. JC. Fang, H. Maeda, H. Kimura: Effects of level of fresh apple pomace in mixed silage on growth performance, meat quality and serum metabolites in finishing pigs. 日本養豚学会誌, 55(1): 1-11, 2018.
- d-01. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛：食品循環資源の飼料利用が地域の食品企業に与える経済効果. 廃棄物資源循環学会東北支部第10回研究発表会（東北大学）, 2018.
- d-02. 松崎正敏・木村 中・大木貴博・伊藤文彰・横山風佳・房 家琛・鈴木裕之：保育中母めん羊のタンパク質栄養強化が産子の発育および血液成分に及ぼす影響. 日本畜産学会第124回大会（東京大学）, 2018.
- d-03. 松崎正敏・梅木直哉・木村 中・房 家琛：発酵パターンの異なるリンゴ粕混合発酵飼料給与がめん羊の血中成分に及ぼす影響. 東北畜産学会第68回大会（秋田市）, 2018.

## 【白神自然環境研究センター】

## 石川 幸男

- d-01. 石川幸男・渡辺 修: 知床国立公園におけるエゾシカ個体数調整後の植生回復過程. 日本生態学会第65回大会(札幌), 2018.
- d-02. 熊谷 泉・本多和茂・勝川健三・荒矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・前田智雄・石川幸男: カタクリの栄養繁殖は鱗茎付属体からの不定芽形成により可能となる. 日本生態学会第65回大会(札幌), 2018.

## 中村 剛之

- a-01. Nakamura, T.: Immature stages of Japanese *Bittacomorphella* species (Diptera, Ptychopteridae). *Acta Dipterologica*, **29**: 8–16, 2018.
- a-02. Nakamura, T., T. Saigusa: Systematic study of the winter crane fly genus *Paracladura* Brunetti from Japan (Diptera: Trichoceridae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, **24**(1): 117–126, 2018.
- b-01. 中村剛之・枝 重夫・笹本彰彦(編著): 日本昆虫目録, 第2巻旧翅類. 権歌書房, 2017.
- d-01. 中村剛之: 豪雪地帯の雪の下ではどのような昆虫が活動しているのか. 日本昆虫学会第78回大会(名城大学), 2018.
- f-01. 中村剛之: 昆虫学者の日常. 月刊『弘前』, 第460号(連載1回目)–第471号(連載11回目), 2017–2018.
- f-02. 中村剛之・植月学: 弘前大学資料館第20回企画展「大学で描く ―学び記録する学術スケッチ―」. 2018. 7. 30 – 9. 29.

## 山岸 洋貴

- a-01. Shutoh K., M. Usuba, H. Yamagishi, Y. Fujita, S. Hiramatsu, O. Tsujimura, Y. Ishidoya, M. Kasai, N. Kasai, A. Matsumoto, T. Norita, A. Yokoyama, S. Kaneko, and T. Shiga: A new record of the critically endangered pondweed, *Potamogeton lucens* L. sensu lato from Aomori Prefecture, Japan *The Journal of Japanese Botany* **93**(4): 240–252, 2018.
- a-02. 斎藤達也・伊藤千恵・山岸洋貴・三上光一・永野昌博・小林 誠: 市民と博物館が協働で調べる地域の花ごよみ. *植生情報*, **22**: 18–22, 2018.
- a-03. 成田一哉・山岸洋貴: 青森県におけるシテンクモキリの新産地. *青森自然誌研究*, **23**: 63–72, 2018.
- a-04. 日下部玄・横川昌史・安生浩太・野原七恵・小池幸雄・大野美涼・山岸洋貴: 白神山地向白神岳北部稜線周辺の樹木. *白神研究*, **13**: 54–59, 2018.
- d-01. 山岸洋貴・山尾 僚・末次健司: ツチアケビの種子は哺乳類にも運ばれる?. 第49回種生物学会(福井), 2017.
- d-02. 山岸洋貴: 白神山地における偽高山帯の植生とその変化. 日本生態学会第65回全国大会(札幌), 2018.
- d-03. 村田 怜・橋本 靖・山岸洋貴・横山 潤・富松 裕: 夏緑樹林における植物群集とアーバスキュラー菌根菌の安定同位体分析. 日本生態学会第65回全国大会(札幌), 2018.
- d-04. 佐々木駿・山岸洋貴・大原 雅・富松 裕: オオバナノエンレイソウにおける分布域の決定要因: 生育密度の緯度勾配と気候ニッチ, 繁殖成功率, 遺伝的多様性. 日本生態学会第65回全国大会(札幌), 2018.

## 農学生命科学部学術報告編集委員会

委員長： 吉田 孝（分子生命科学科）  
池田 紘士（生物学科）  
岩井 邦久（食料資源学科）  
川崎 通夫（国際園芸農学科）  
郷 青穎（地域環境工学科）

2019年 1 月 21 日 印刷

2019年 1 月 31 日 発行

編集兼発行者 **弘前大学農学生命科学部**  
〒036-8561 弘前市文京町 3

印刷所 **やまと印刷株式会社**  
〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

*Published by*

Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University  
3 Bunkyo-cho, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8561, Japan  
31 January 2019

*Printed by*

Yamato Printing Co., Ltd.  
4-4-5 Kanda, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8061, Japan  
21 January 2019

BULLETIN OF  
THE FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE, HIROSAKI UNIVERSITY

---

Number 21

January, 2019

---

CONTENTS

- Suguru MASAKI, Masatoshi MATSUZAKI, Satoshi ISHITSUKA : 1 (7)\*  
Current situation and prospects of dairy farming in Aomori  
Prefecture after dairy policy reform  
– Based on the JA Yuuki Aomori members intention survey –

\*English Summary

- 
- Asunaro Prize 2017 9

- Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science, 15  
Hirosaki University, 2017 (October) — 2018 (September)